

タ
ル

文化村クリエイション
vol.7

黒川 岳
Gaku Kurokawa

イ
ワ

ガ
レ
ン
ガ
レ
ン



タルイワ
ガレングレン

ガレングレン

文化村クリエイション

2022年3月奈良県天理市にオープンした「なら歴史芸術文化村」(以下、文化村)は、文化・地域振興を行う拠点として奈良県が整備しました。道の駅でもあり、文化財修復工房の通年公開、アーティスト交流、幼児向けアートプログラム等を行う多機能複合施設です。アーティスト交流プログラムでは、公募のアーティスト・イン・レジデンス「文化村AIR」、奈良出身・在住等のアーティストを紹介する「奈良ゆかりのアーティスト交流プログラム」、そして「文化村クリエイション」を実施しています。

「文化村クリエイション」は、先進的な取り組みを行うアーティストを文化村職員が選定し、リサーチ、制作、発表を行うとともに、創作の過程を開いていく試みです。

日々の暮らしやリサーチの中で吸収した種が、どのように芽を出し花ひらくのか、その過程には必ずしも作品に表れないたくさんの発想のかけらや逡巡があります。一見関係がないものや、無駄とも思える部分に宿る豊かさへ、少しでも触れるきっかけとなることを目指しています。

文化村クリエイションvol.7

Vol.7となる今回は、彫刻やパフォーマンスを通じて人とモノの新しい関係性を探求している芸術家の黒川岳を招へいしました。

幾度かのリサーチを経て黒川が掲げたテーマは「樽(タル)」と「岩(イワ)」。かつて奈良・吉野町の味噌蔵で大きな樽を目にした時に黒川が抱いた「こんな樽を打ち鳴らしたらきつといい音が聴けるはず」という直感をきっかけに、「吉野杉で縦横約2mのタルをつくる」とともに、約7トンの「生駒石を彫る」ことに取り組みました。

およそ3ヶ月におよぶ怒濤の滞在制作の中で、常に自らの手で素材に触れ、考え、試すことを繰り返しながら、ひとつずつ進んでいく黒川の姿勢は、「聴く」「触れる」といった身体的な感覚を介して物事を捉えようとする黒川の作品制作そのものを体現していました。

様々な限界を超えようと、生き生きと挑み続けたこの夏の日々と経験は、文化村クリエイションの可能性をも押し広げる大きな成果となりました。



文化村クリエイション
vol.7
黒川 岳
Gaku Kurokawa

滞在活動期間：
2025年7月10日^木–9月27日[±]

滞在制作場所：
芸術文化体験棟3階 スタジオ301・302
屋外体験ゾーン広場 ほか

5月–7月
リサーチ
おもに奈良市・天理市・生駒市・吉野郡など

7月27日^日
アーティストトーク
『アーティストトーク：黒川岳』

8月23日[±]
ワークショップ
『鉄(てつ)鯉(かつお)グルングルン』

9月21日^日
アーティストトーク
『グルングルングルングルの報告会』+
成果発表



黒川はタルづくりについて、かつて見た葛飾北斎《富嶽三十六景 尾州不二見原》をイメージしていたとのこと。

黒川 岳

1994年島根県生まれ。京都府在住。2016年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、2018年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修士課程修了。自らの体をもって様々な物・事にきちんと触れる(触れようとする)ことの喜びや不思議さ、難しさなどと向き合いながら、その時々に出る素材や対象と関わる方法を見出し、あるいはそれらを見出そうとするプロセス自体に着目して作品制作を行っている。

過去の主な個展に「el cielo y el desierto están haciendo empanadas」(FINCH ARTS、2023年)、「甕々の声」(アートラボあいち、2021年)、グループ展に「バグスクール：野性の都市」(BUG、2024年)、「美しいHUG!」(八戸市美術館、2023年)などがある。令和5年度京都市芸術文化特別奨励制度認定者。

奈良での滞在制作に向けて

黒川 岳

奈良を訪れるたび、私はこの土地の持つ不思議な「時間」に魅了されてきました。

今立っている所から自分の体が果てしなく遠い昔へと繋がっていくような感覚。あるいは、そんな遥か彼方の時間がふと自分の直ぐ目の前に現れるように感じることもあります。この大地や自然環境、そしてそこに生きる人々の暮らしの積み重ねが、この言語化しきれない時間感覚を生み出しているのだと思います。

奈良の地で滞在制作をする機会をいただいたからには、この土地ならではの人や歴史、自然の連環の内に少しでも自分も混ぜてもらえるようにと願います。きっと、制作活動はそのための自分なりの方法なのです。

はっきりとした姿形を持たず掴み難いけれど、確かにそこにある。この土地に身を置いた作業を通して、奈良ならではの「時間」と向き合っていきたいと思っています。



樽底杉材木割仕事と乾燥

提供:成瀬匡章

6月:タルのリサーチで訪れた吉野・匠の祭で見た、かつての樽づくりの様子が分かる写真。



大和吉野川雨中の筏

Rafter in the Rain, Yoshino River, Tamato

提供:成瀬匡章



7月:イワのリサーチで訪れた生駒・株式会社山長での素材探しの様子。



7月:タルのリサーチで訪れた吉野・梅谷味噌醤油株式会社で、樽についてのお話を伺う。かつて黒川が目にした大きな樽はこちらの屋外にあったもので、その時からの興味が今回のタルづくりにつながった。

タル

5月29日

樽がスタジオにやってきました。廃棄予定だったものをお譲りいただいたものです。小さな口から中をお湯で丁寧に洗い、3つ並べて天日干しされている樽たちの姿は、どこか愛らしく見えます。黒川はこの樽の構造も手がかりに、数十倍にもなる大きなタルの制作に取り組みました。



イワ

7月3日

これまでに何度も石を素材に作品制作に取り組んできた黒川と生駒山までリサーチにやってきました。この一帯で産出される黒くゴツゴツした質感が特徴の生駒石は、古くから特に庭石として重宝されていたといいます。ゴロゴロと積まれた生駒石の山を軽やかに駆け回り、その迫力を楽しみながら彫ってみたくなる岩探しをしていました。

タル

7月3日

奈良県の名産である吉野杉を扱う製材所を訪ねました。樽づくりにおいて、酒樽などの側板となる杉を手作業で加工したものを樽丸と呼び、かつて吉野の林業はこの樽丸づくりを中心に発展してきたそうです。貯蔵場や加工場には、まっすぐ伸びた大木や板材が盛られた山々が連なっていました。実は一般住宅用の建材よりも高い品質が求められる樽づくりのための木材は、吉野杉のクオリティが存分に発揮できる製品なのだそうです。



取材させていただいた吉野中央木材では、製材に欠かせない帯ノコ(バンドソー)の刃の目立てやメンテナンスを自分たちで行うとのこと。素材や目的にあわせて道具をつくり、維持することがものづくりの基盤であることを痛感する。

タルイワ

7月10日

スタジオの設えが完了し、滞在制作が本格的にスタートしました。鑿(のみ)や鉋(かんな)、テーブルソーなどの電動工具、換気扇を使用した集塵機^[p.48]などの自前の道具が運び入れられたほか、畳屋からお譲りいただいた古畳を敷き、細かい制作作業や来客応接時に腰を下ろせるスペースも設けられました。



イワ

7月11日

硬い岩を彫る石鑿(いしのみ)をメンテナンスするために、木炭で火を起こした炉で鑿を高温に加熱し、ハンマーで叩き鍛える「火造り(ひづくり)」が必要なのですが、黒川はその補助燃料を段ボールから自作しています。段ボールを細かく裂いて水に浸し、手作りのハンドプレス機で圧縮。その後乾燥させると薪として使えるようになります。木炭より火力は控えめですが燃焼時間が長く、なにより安価なのが特徴です。文化村でも「段ボールちぎりコーナー」を設け、来村者の方にもこの段ボール薪づくりの一部を体験していただきました。「バーベキューをするなら、むしろ段ボール薪が最適かもしれませんね!」と盛り上がりました。

タル

7月15日

タルづくりに使用するための吉野杉を搬入しました。長さ2m・厚さ50mm・幅110-160mmの板材、計53本をスタジオに運び入れました。黒川はこの全ての材木を一人の手で削り、曲げていきます。



タルイワ

7月17日

近々に工房をたたまれるという木工家具職人の方より、大量の木材や道具をお譲りいただけるとのお話がありました。工房へ何うとホームセンターでは見られないようなさまざまな種類・色合い・形・重さの木材が目白押し。それらをトラックいっぱい積み込み、文化村に運び入れると、スタジオはすっかり木工工房のような雰囲気になりました。ここでいただいた木材や道具たちは、以後の滞在制作の中でとても有意義に活用できました。





7月17日

スタジオの窓から見える文化村の入り口で、暑い中で働く文化村スタッフの姿を目にしていた黒川は、頑丈なストッパー付きの手押し車にパラソルが一体になった日よけを制作しました。内部に荷物などの収納スペースも備わった優れたものです。この夏の暑さだけでなく、雨天時にも大活躍していました。

タル

7月22日

タルづくりは、側板(がわいた)を円状に並べたときに隙間なくぴったりと合うよう、まずは正直台(しょうじきだい)^[p.42]で板材に角度をつけるところから始まりました。運び入れた木材を加工するため、中央に黒川の鉋を仕込んだ正直台を組み立てました。側板となる板材に角度をつけながら正直台の上を滑らせて削り、理想の角度に近づけていきます。計53本を1本ずつ丁寧に削り上げるこの作業は1ヶ月以上も続きました。一般的に鉋屑(かんなくず)というと、まっすぐな帯状のものをイメージしがちですが、正直台で削った鉋屑は、らせん状にくるくると丸まっています。



イワ

7月24日

大きな生駒石が文化村にやってきました。重さ7.3トンにも及ぶ岩がクレーンで吊り上げられ、屋外体験ゾーン広場に設置されると、まるで以前からそこにいたかのように景色に溶け込みました。これまでも石を用いた作品制作に取り組んできた黒川も、ここまで大きなものは初めてとのこと。ここから屋外での本格的な制作が始まりました。



タルイワ

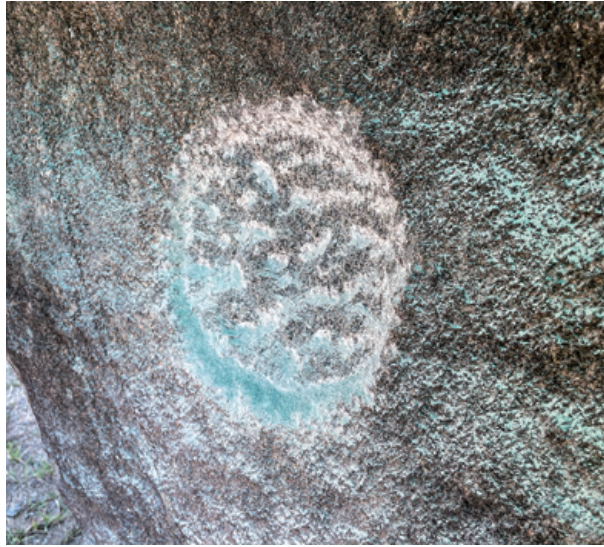
7月27日

アーティストトーク

『アーティストトーク：黒川岳』事前のリサーチなどからおおよそ2ヶ月を経て、アーティストトークを開催しました。来場者みんなで「段ボール燃料づくり」のために段ボールをちぎりながら、これまでのリサーチの様子や現状報告、今後の活動内容などについての話を伺う、和やかな雰囲気トークとなりました。また、スタジオや屋外でも素材に触れながら制作のプロセスを紹介し、来場者のみなさんに制作の一部を体験していただく場面もありました。



イワ



7月29日

制作は平日・休日を問わずほぼ毎日行われていました。特にイワに取り組む屋外の制作現場となった広場は、文化村の開館時間外でも解放されているため、真夏の早朝から炎天下のお昼、ようやく日が暮れた晩までの一日中、黒川の姿がありました。作業が始まると広場からカンツ……カンツ……と音が聞こえ、来村者やスタッフはその音をたどるように黒川に会いに行きました。そうして円形に広がった鑿跡が日ごとにじわじわと深くなり、いつしか穴へと変化していきました。



タル

8月3日

スタジオではタルの側板づくりのための独自の新しい道具が生まれていました。一般的な樽の側面が直線的な形状であるのに対し、黒川が目指すタルは中央が膨らんだ形状のため、全ての側板を曲げる必要があります。細長い箱とやかんがホースによって繋がれた「蒸し機」^[p.46]は、正直台で角度を整えた板材を蒸して柔らかくし、理想の形に曲げやすくするための道具、「曲げ機」^[p.44]は重ねた足場板を曲面に削ってゲージとして、帯状の鉄鋼といくつものジャッキで締め付ける道具で、これらは何度も試行錯誤しながら調整され、洗練されていきました。



タル

8月4日

スタジオで削り上げた板材と自作の道具を広場に持って行き、実際に曲げ作業をテストすることに。やかんからの蒸気を使った蒸し機で数時間をかけて蒸した板材を曲げ機にセット。ゆっくり慎重にジャッキで締めながら板材を曲げていくと、厚みのある板がだんだんと曲がり始めました。しかし、その瞬間「バーン!」という音とともにワイヤーが切れ、テストは一時中止となりました。翌日、ワイヤーや金具をより頑丈なものに差し替え、再度慎重にジャッキを巻き上げると、ついにゲージに沿って板材を完璧に曲げることができました。



タル

8月4日

板材を曲げた状態で固定し、そのまま数時間かけて冷ました後、固定していたベルトを外して確認してみると、わずかですが曲がり具合が戻ってしまい、本来の角度より浅くなってしまいました。悩み抜いた黒川は、戻る角度を見越してあらかじめゲージの曲面の角度を強くすることに。鑿やグラインダーで曲げ機を整え直し、再度、蒸して・曲げて・冷ました板材は、当初の計算通りの理想のカーブに仕上がりました。これで道具や方法の準備・実験が整い、本格的に側板づくりに取り組み始めていきました。



イワ

8月16日

蒸しや曲げの作業の間は常に石彫です。黒川は長さ・硬さが異なる石鑿を使い分けながら、手だけでイワを彫っていきます。特に生駒石は硬いため、石鑿もそれに負けない頑丈さが求められます。さらに穴が深くなると長さも必要となるため、削岩機用の先端パーツを改良し、石鑿として使うことになりました^[p.49]。こうして素材の状況にあわせて道具を工夫しながらこつこつ制作していきました。



タルイワ

8月19日

文化村で文化財修理を行う「歴史的建造物修復工房」を訪れました。技術者の方々から修理道具についての説明を聞きつつ、台鉋(だいがんな)や槍鉋(やりがんな)、新(ちょうな)といった伝統的な道具の使用体験もできました。制作で鑿や鉋を日常的に使う黒川は、刃の出し方やメンテナンス方法など、使い手ならではの視点から熱心に質問をしていました。その後、今度は黒川の制作場所に工房の技術者を案内し、黒川独自の制作や道具を紹介しました。文化村内でそれぞれ異なる分野でものづくりに取り組む両者が交流する、貴重な機会となりました。



イワ

8月22日

石鑿の先は摩耗するため、定期的に火造りによる焼き入れを行い、硬さや鋭さを回復させます。炉でじっくりと熱することで赤く染まった鑿先を叩いて締めます。最後に水で一気に冷やすと、鑿先は銀色に輝き、強く・硬くなります。生駒石は特に硬いため、鑿がその硬さに負けないよう、炉の温度やタイミングを試行錯誤しながら、制作中には何度も火造りを行いました。



タルイワ

8月23日
ワークショップ

『鉄 鯉 グルグルン』

黒川の滞在制作にとって重要な「道具づくり」をテーマにしたワークショップを開催しました。文化村の「歴史的建造物修復工房」にて、文化財の修理に使われる道具に触れた後、黒川とともに実際に鍛冶作業を体験し、道具づくりに挑戦。仕上がった槍鉋で鯉節を削ると、くるくると丸まって削れました。最後は、削りたての鯉節をご飯にのせたり、お出汁にして味わいながら、みんなで1日の成果を堪能しました。



参加者それぞれが鉄筋を火造りで鍛造したもの。研いで仕上げると硬い鯉節もなんとなく削れます。

タルイワ

9月5日

滞在制作の現場となったスタジオや広場を訪れた多くの来村者は、黒川の壮大な取り組みに驚きつつも、実際に彫り進んだイワの穴に頭を入れてみたり、削り・曲げられた材木に触れてみたりといった体験を通して、様々な気づきや楽しさを発見される方が多くいらっしゃいました。また、真夏に休む事なく作業する黒川は、文化村で働く多くのスタッフを含む様々な方々と関わり、時に見守られながら制作を進めていました。





タル

9月15日

組み立てに使った単管パイプを車輪付きの台車へと組み替えて、その上にタルを載せる作業を行いました。隣で制作中だったイワとタルをベルトで繋ぎ、その間にスロープを持たせた単管の台車を設置。滑車でカチ……カチ……とベルトを巻き上げながら、タルを滑らせるようにして単管台車に載せる目論見でしたが、重く不安定な形状のタルを、まっすぐ引き上げるのは至難の業でした。ギシ……ギシ……とタルが軋む音に緊張が走る中、時にベニヤ板や角材も噛ませるなど、ゆっくり慎重に引き上げ、ついにタルが台車の上に安定して載った時には、張り詰めていた空気は緩み、安堵と笑顔が広がりました。夜、見上げる高さになったタルはライトに照らされ、これまでとは違った存在感を示しました。



タル

9月7日

およそ1ヶ月をかけて削り・蒸し・曲げた53本の側板をいよいよ円形に組み上げます。単管パイプとベルトを使って大きな円形状のガイドをつくり、そこにもたれさせるように側板を1本1本立てて並べます。接着剤やネジを使わないため、自然なバランスを探る緊張感のある作業です。風や振動でカランカランッと倒れてしまうこともありましたが、全てを円形に立て、全体をベルトで絞めながら側板の上下を内や外から木槌で叩いて整えると、どっしりとしたタルの風貌が現れました。



タルイワ

9月21日
アーティストトーク

『グルングルングルングルの報告会』

滞在制作の最後のイベントとなったこのアーティストトークでは、およそ3ヶ月に及んだ『タル イワ グルングルン』の活動報告を行いました。制作に必要な道具づくりからはじまり、試行錯誤を重ねながら朝から晩まで、スタジオと広場を走り回ったこの夏の日々を振り返るとともに、これまで黒川の作品でも多く扱われる「石」に関連して、奈良県内の石造物について文化村学芸員による解説を行いました。トーク終了後には、実際に黒川がつくった道具や作品を紹介する「お披露目会」を開催しました。イワの穴に頭を入れ、普段とは違う周囲の音に耳を澄ませてみたり、タルの中で拍子木を打ち鳴らし、響く音に身体が包みこまれてく体験をしてみたり。最後はタルを神輿のように引っ張りながら移動させ、文化村の山や池、駐車場、工房へと向かってカーンッ……カーンッ……と音を鳴らして回りました。黒川とタルを起点に打ち出された音が、周囲を震わせながら反響していく様子を、みんなで体感することができました。









タル





文化村クリエイション vol.7 黒川岳

主催：
なら歴史芸術文化村

企画：
野村百合子（なら歴史芸術文化村）、正木裕介（Gallery PARC）

企画・運営補助：
Gallery PARC

文化村クリエイション vol.7 ドキュメント2025

デザイン：
塩谷啓悟

編集：
野村百合子（なら歴史芸術文化村）、正木裕介（Gallery PARC）

撮影：
麥生田兵吾（合同会社ウミアック）
〔表紙、p2-7、p9（下）、p10（下）、p11-12、p13（上）、p14-16、p17（上）、p18（中央、下）、
p19、p20（下）、p21、p23-24、p25（上）、p27（下）、p28-51〕

写真提供：
成瀬匡章
〔p.6〕

執筆：
黒川岳、なら歴史芸術文化村

協力（順不同）
株式会社井上本店、長瀧酒造株式会社、梅谷味噌醤油株式会社、匠の聚、
春増薫（樽売木材株式会社）、横堀寛人、株式会社山長、吉野中央木材株式会社、
株式会社天理三和屋、CRAFT・1、鳥井幹仁、株式会社平井クレーン興業、
株式会社まほろばホールディングス、太平ビルサービス株式会社、
株式会社ネクスト・アクシス

発行：
なら歴史芸術文化村
〒632-0032 奈良県天理市袖之内町437-3

発行日：
2026年2月

©なら歴史芸術文化村
無断転載・複製禁止



黒川がつくったもの(道具)



《正直台》
2025
桧、ボルト、座金、ナット
h 883 × w 3000 × d 802 (mm)



《曲げ機》

2025

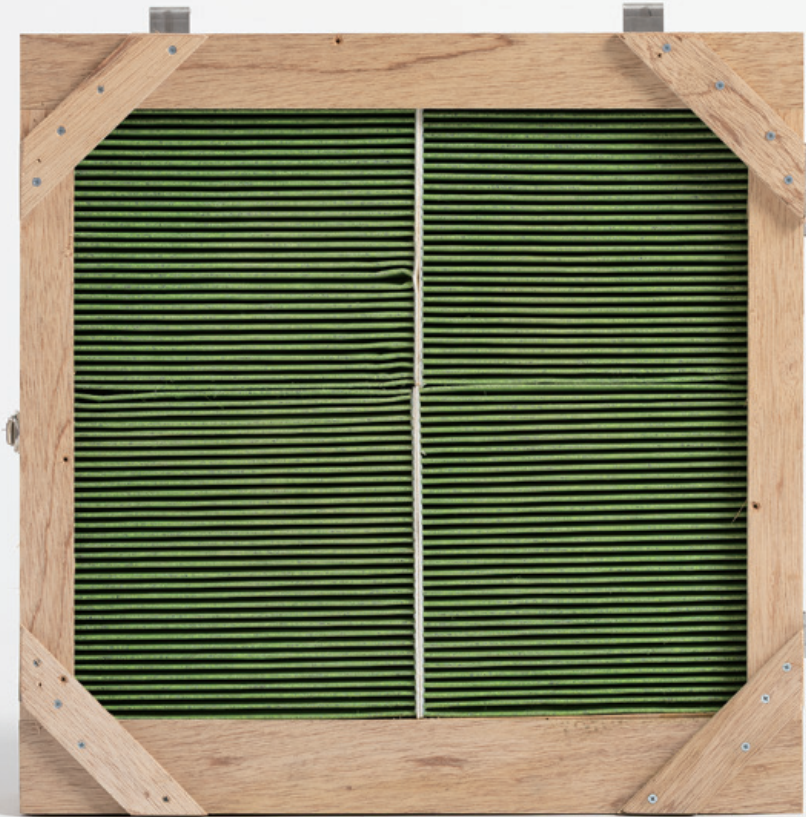
木、帯鋼(焼き入れリボン)、ベアリング、ホールダウン金物、アイナット、ボルト、ナット、ワッシャー
h 1240 × w 2010 × d 179 (mm)



《蒸し機》

2025

合板、やかん、ホース、継手、台座、IHコンロ
h 900 × w 2181 × d 432 (mm)



《集塵機》

2025

合板、換気扇、カーエアコンフィルター、不織布、蝶番、パッチン鍵

h 460 × w 473 × d 220 (mm)



《鑿(長)》

2025

鉄

h 357 × w 40 × d 40 (mm)

黒川のつくったもの(つくろうとしたもの)

この一覧からは、黒川の「制作」は、素材の特性や作業内容に合わせて道具をつくるだけではなく、制作環境や状況、人との関わりの中で必要と思える様々なものにも及んでいたことがわかる。

名称	備考
1 集塵機(粉塵向けの空気清浄機)	換気扇を改良して使用
2 テーブルソー集塵システム	粉塵の飛散防止用
3 テーブルソーと掃除機の接続コネクタ	
4 パラソル台	交通整理のおっちゃんたち用
5 砥石台	
6 アウトアカート牽引用接続パーツ	自転車でカートを牽引するため
7 鉋台①	古くてガタついたものを調整し直して復活
8 台直し鉋の代わり	CRAFT・1のご主人にいただいた堅木を使用
9 定盤の代わり(鉋の台直し用)	
10 苗ポット	ヨーグルトの空き容器使用。サラダ菜育成用
11 正直台	
12 正直面ガイド	4つの木材の幅ごとに、異なる角度のスケール
13 蒸し機	曲木用
14 ダンボール薪	火造り用
15 曲げ機	曲木用
16 焼き入れ鋼板穴あけドリル	コンクリートドリル刃を改造
17 鯉節削り機	ワークショップ用
18 削り馬	ワークショップ用。正直台に取り付け
19 単管槽	タル組み上げ用
20 側板組み用の床	単管槽内で使用
21 ポートのオール	未製作。交通整理の鳥井さんに渡す用
22 オール用クラッチ/ベース	未製作。交通整理の鳥井さんに渡す用
23 竹割り治具	未製作
24 鉋を銚として使う用の柄	未製作
25 四方反り鉋	未製作。平台鉋を改造
26 外丸鉋	未製作。平台鉋を改造
27 石のみ(長)	未製作
28 石のみ(曲がり)	未製作



黒川の日々のこと

滞在期間中、京都～奈良を電車で通っていた黒川は、おもに帰りの電車内でほぼ毎日のベースで日誌をつけている。その内容はその日にやったこと、起こった出来事や思ったこと・考えたこと、明日にやってみたいことなどが書き付けられている。ここでは日誌の内容というより、黒川の3ヶ月におよぶ日々が確かにあったことを感じていただきたく、少々強引ではあるが可能な限りそのすべてを掲載することにした。

*一部の内容や表記については編集しています。(※は編集時に追記)

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
7月4日 [*]	10:00	午前から山科で記録・広報についてのオンライン打ち合わせ(Gallery PARCの正木さん、カメラマンの妻生田さん、デザイナーの塩谷さん)。午後から京都にて荷物積み込み(レンタカー)→文化村搬入。タル・イワの設置場所及び来場者の安全性確保についての指図(文化村職員の池口さん、平山さん、野村さん)を受けて、そもそも計画の再検討も考える。
7月5日 [±]	10:00-17:30	展示壁移動、スタジオ整理、ホームセンター、天理三和量産から量をもらって搬入。
7月6日 [□]	9:40-19:00	スタジオ内養生、テールストロ調整、予定表作成、簡易の集塵機※p48)づくり
7月7日 [*]	不在	オンラインで打ち合わせ(正木さん、野村さん、平山さん)。吉野中央木材さん※より木材見積もりをいただきました。 ※吉野中央木材株式会社
7月8日 [*]	9:20-17:00	道具の準備(鑿研ぎ等)。野村さん、平山さんにスタジオ前の掲示物を作成してもらう。
7月9日 [*]	11:00-12:00	レンタカーにて冷蔵庫・自転車等搬入。スタジオ前1機断扉スタイルの掲示物を作成してもらう。
7月10日 [*]	9:30-19:00	自転車でのアウトドアカート牽引具製作。11時～山長さん※現調。池口さんに車に乗せていただきジモティーの電子レンジ受け取り(巻向、0円)。午後は山長さんの車に乗せていただいて生駒山に行き、石の候補を少し重め(6〜8tくらい)と軽め(3〜4tくらい)に絞る。天理までの運送費は重い方で総額20万円以上となる見込み。生駒の100均で買出し。 ※株式会社山長
7月11日 [*]	不在	日中は明日香のギャラリーへ知人の展示を見に行く。夕方からは別件の仕事のためお休み。山長さんより、重い方の石が7t程度との連絡あり。すっかり重い石でやる気になってしまったようで、電話を受けた際には既に目当ての石を山の上まで運び上げた状態とのこと。電話口の声色から若干興奮しているのを感じる。山長さん所有のダンプで運んでいただけられたことになった。15日はクレーン業者の都合が合わなかった為、20日か24日を運送候補日に打診中。現状での見積もりを依頼。野村さんがスタジオ前のホイットボードに黒川の滞在予定を書いてくださいました。
7月12日 [±]	9:50-19:30	スタジオの掲示サイン作成。15日のレンタカー予約(2tトラック、トヨタレンタカー郡山店)。天理駅前駐輪場定期券購入のつもりだったが、販売期間外で購入できず。行きのバスで文化村の前でイタチを目撃。運転手さん曰く、先月は付近に熊が出たとのこと。ホームセンターで買出し。パラソルの制作。初の来訪者(母子4人)が来られる。帰路から自転車での天理駅と文化村間の移動を開始。炊飯&レトルトカレーを電子レンジで温め昼食。ついに自炊が可能に。ありがたい……。
7月13日 [□]	10:00-19:30	パラソル到着。文化村職員の北村さんにテントと工場扇をお借りしました。テントは2.5m×2.5mなのでとても良いサイズでした。午前中、平山さん、Gallery PARCの正木さんと石場さんがご来村。北村さんと5人でトークイベントについて相談。当日は簡単な自己紹介と、これまでのリサーチで得たことを踏まえた上で今後の計画についてお話をすることに。備品としてモニターを使用予定。椅子を整理し全て堅い雰囲気にするのではなく、椅子に加えてスタジオで使用している畳も敷いて、来場した方々とダンボール箱※p11)用にダンボールをちぎりながら話をしたい。正木さん、石場さんと山鳩にて昼食。スタジオで別件のオンライン打ち合わせ。タルを名古屋で展示する可能性が出てきた。午後も正木さんと石場さん、北村さんとも一緒に話しながら作業。パラソル、直正台の台座の制作。直正台用の鉋が絶対にかさいが、果たしてこれで作れるか!?そして直正台用の角材が正直でないので頑張る必要がある。
7月14日 [□]	10:20-19:30	引き続き直正台の台座の制作。集塵機改良。山長さんより電話があり、石の運搬は24日に決定(7時半に石積み込み、8時に生駒発、9時に文化村着予定)。野村さん、平山さんとトークイベントと石の搬入に関して打ち合わせ。文化村内の他のイベントと兼ね合いを考慮してトークの開始時間を15時に変更。ホゾを切る作業をするのに髪が邪魔で集中できなくなり、急遽天理市内の美容室で髪を切る。ドラッグストアにて食料買出し。
7月15日 [*]	8:30-19:00	朝、郡山にて2tトラックをレンタルし、単管パイプ等を買って文化村へ搬入。正木さん、塩谷さん、妻生田さんは午前中にスタジオの様子撮影→吉野周辺にて石撮影。13時に吉野中央木材にて素材受け取り→文化村に木材搬入。木材の運搬に大型エレベーターが必要(15時〜15時半頃に文化村着にかなるか?)なため、管理事務所をお願いしておく。
7月16日 [*]	不在	11時〜12時は別件オンラインミーティング(スタジオにて)のため動けません。が、その他の時間は対応できます!ワークショップの実施内容検討。
7月17日 [*]	10:00-19:30	午前中にCRAFT-1にお伺いし、想像を超える量の木材や木工関連の本をいただきました。レンタカーで北村さんと文化村へ向かい、野村さんにもお手伝いいただいた。木材をスタジオに搬入。15時〜文化村の職員の方々向けの説明会。パラソル台が遂に完成したため、早速交通誘導のおっちゃんの手配があったが、文化村と警備会社の承諾を得ていなかったため一旦引き下げる。パラソル台の扱いについて、相談いただくことになった。勝手に置いておくことにご迷惑をおかけして申し訳なく感じました。おっちゃん達の力になれない悔しさを噛み締めるつ作業。直正台の台座完成。帰り際にCRAFT-1のご主人がお怪我をされたとの連絡。お身体が心配。CRAFT-1のご主人は時間に限りがあり、あまりゆっくりお話ができなかったのですが、次回お会いしたら色々とお話ししてみたい。北村さん、貴重な機会をありがとうございます。パラソル台は突き返されるのではとドキドキしながら持ってきましたが、交通誘導のみさんからはとても喜ばれ、かえってこちらが有難い気持ちになりました。打ち水をさくらいだはなかなか温度も下がらないだろうし、雨の日もカッパで蒸れまくるので結局は暑いだろうし、すぐ大変なはずなはずと思っていたのですが、やっぱり大変なようです。アート作品だか何だかを生み出す想像力以前に、目の前の人や物事を思う想像力失ってしまったらおしまいだなと思いました。もしパラソル台が置けなかったとしても、何か他の方法を考えます。僕は諦めます。
7月18日 [*]	10:00-19:20	ホームセンターで買出し。CRAFT-1からいただいた木材を使わせていただき、鉋の台座用の道具を制作。それを使って鉋(小学校のお古で、おそらく自分が生まれる以前に使われていたもの)の台直し。その鉋を使って直正台※p42)の制作が完了。文化村の大きな台車に角材の補強を入れた。館内のイベントに参加されていた方々が大人数でいらっしゃったので、スタジオ内で簡単にご説明した。太平さん※より、角材と池口さんがお越しになり、パラソルについて相談。その後に池口さんと野村さんにパラソル台の寸法計測をしていただいた。平山さん、野村さんと火造り関連の打ち合わせ。野村さんにトークイベントのポスターを貼っていただいた(いつの間にか)。再び太平さんの方がお越しになり、少ししん話。夕方、エアコンが濡れてお世話になった警備員さんが、明日お休みで文化村スタッフ向け説明会に参加できないからとスタジオにお断りになったので、色々とお話しした。パラソルの件、色々ご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありません。皆さまがそれぞれ異なる立場からパラソルをどうするか考えていただけており、有り難いです。お世評9割かもですが、太平さんにも物自体は気に入っていただいた様子です。今日は作品をつくるための道具をつくるための道具を仕込むための道具をつくるという訳のわからないフェーズに差し掛かり、さすがにこの先のことが心配になりました。頑張って進めなければ……。CRAFT-1のご主人、どうかお身体回復されますように。※太平ビルサービス株式会社
7月19日 [±]	9:20-19:50	スタジオを整理してタルの制作作業の体制を整える。タル用の部材の削り出し寸法等を計算。以前いただいた酒樽を遂にひとつバラして構造を確かめた。こちらの樽は直正面が真っ直ぐでシンプルな構成になっている。これで水が濡れないというのが改めて凄いなと思う。11時〜文化村の職員の方々向けの説明会。文化村で開催していた「さわら」展のご案内もいただいたので、また行きたい。ひとまず寸法計測は終わったものの、本当にこれで行けるのか全く分からない。制作したい形状にするには直正面を曲面かつ角度をつけて削る必要があるため、けがきの方法もそれに合わせて考案。それぞれ異なる幅の木材ごとに個別の角度のマスターとなる直正面ガイドを制作。池口さんがスタジオにお越しになり、パラソル関連の現状を教えていただいた。クリアしなければならない法律関係の問題等について、県の該当部署に訊いていただいているとのこと。普段、道路に既に置かれているカーコーンや、誘導のための人の常駐はどのように手続が踏まれているのだろうか。色々知らないことばかりでお恥ずかしいが、そんな街のルールについて興味があった。試しに木材にけがきをして一本削ってみた。意外と直正台が機能している。時間を見い出して閉館間際に掃除もせず退出。天理駅で電車を逃し、JRで奈良駅まで行って近鉄まで猛ダッシュ。なんとか間に合った。
7月20日 [□]	12:40-19:00	選挙。午前中に京都で番木を購入し、レンタカーで運搬。ついでに食材買出し。北村さんより、木太鼓の革職人についての新聞記事を読んだ。タル用の木材の墨付け(105mmを18本)、直正面の削り作業。墨付けから削り作業までの基本的な作業手順が決まった。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
7月21日 [□]	10:30-19:00	※日誌見当たらず
7月22日 [*]	9:20-19:00	タル用の木材の丸鋸カブ切り作業完了。丸鋸でこんな厚みの木材を曲線切りするなんて狂ってると思いつつも、現状ではこれが最良の方法なので仕方がない。負荷が大きいせいでバッテリー(予備も含めて4個体制)の消費が激しく、充電が使用スピードに追いつかない。途中、スタジオの換気扇がうるい声を上始めたので、設備の方に来ていただいた。確認していただいたところ、自分が粉塵防止のために設置したプレフィルタに木屑が溜まり過ぎたことが原因と判明。ついでに本来の設備側のフィルタまで見ていただいた所。こちらは全く木屑がついていなかったの、想像以上にプレフィルタが機能していたことが分かって安堵した。しかし、今日は頻繫にプレフィルタを交換しなければならぬと思うと若干憂鬱にもなる。平山さんと野村さんがスタジオにお越しになったので、パラソルの件をきかっけすっかり今回の自分の滞在制作のメインテーマのひとつとなった交通整理の方々についでにワークショップ案を提案する。ワークショップ参加者とともに交通整理の現場にお伺いし、どのような作業なのかを身をもって感じ取った上で、彼らが涼しくなる(あるいは、暑さが柔らいだ気持ちになる)にはどうすればいいか、リサーチをしながら検討し、可能なものであれば実際にやってみる、という内容。一見アートと関係ないと思われそうだが、自分の制作スタイルや思考を共有するにはある意味ストレートな手法だと思っている。平山さんと野村さんからそれなりに洗ひ反響をされたが、そのやり取りの中もむしろ方向性が間違っていないと再確認できた。感謝。またワークショップと関連して、文化村内で募金をするのが可能かお伺いした。これは、「交通整理のおっちゃん達を涼しくするために必要な物を準備する基金」を目的としたもの。交通整理のワークショップで必要となる物を準備したり、あるいはミス・器具や道路使用の費用に充てることも可能かもしれない。募金を行うことで来館者の意識と一緒にでも交通整理のおっちゃんに思いを寄せる機会が生まれることが最も重要な目的。平山さんから募金の可否について確認していただいたことになったので、ご返答をお待ちすることに、毎度毎度ややこしいことばかりご相談して申し訳ない……。正木さんに電話でワークショップの案もご相談し、24日にもう少し具体的に検討することになった。換気口臭音事件とワークショップの相殺の時間があっても、どうにか全ての木材の曲面削り(全106カット)が終了した。今後はこれより一つづつ鉋を使って、曲面の調整と角度をつけていかなければならない。そういえば、ヨーグルトの空き容器を使った缶フットに髷した種から、何日か前にサラダ菜が芽を出していた。まは北村さんにお譲りいただいたもので、ふかかしている。毎日少しずつ伸びているのを見るのが地味に楽しい。来月ぐらいい昼食で野菜が取れるようになっていく様子を想像した。
7月23日 [*]	10:00-19:00	トラックが14時からのレンタルになったため、午前中は春日大社の籠太鼓(だいい)を見に行くことにする。レプリカも本物もどちらも素晴らしい姿。革面が馴染りに対してかなり大きい。自分の目指すのはこれより胴が大きいものになる。胴の形状は若干のカーブを描いているもの、木自体は曲げておらず、削ってある様子。やはりこのサイズになるとストリートでないとするのが難しいのだろうか。14時にトラックを借って、北村さんとの待ち合わせ時間までの時間でホームセンターに買出し、コンパネややかんなど、曲木用の糸の部材を購入する(だが、例によってやった事はないのでこれであるかは分からない)。15時すぎ、北村さんとともにCRAFT-1にお伺いする。前回の普通車で運べなかったサイズの木材を中心にビックアップさせていただいた。コンパネややかんなどに次から次へと新たに別の木材が目に入ってきて、終わりが見えない(結局、トラックの荷台壁の高さくらいまでのところでタムリミットとなった)。北村さんのご家族が以前に使われていた庭師削り機も発掘されたのでこちらも救出。かなり傷んでいる様子だが、どうにか再生できるだろうか。トラックで文化村に到着すると、なんと文化村の職員のみさんと一緒に木材を運んでいたが、本当に難かった。一人で積み込んだのがこんなにあとという間に終わる感覚。トラック返却の時間が迫り、一旦足立に文化村発。19時前に返却し、奈良駅近のスーパーで買出しをして夕食。翌日に備え22時就寝。そういえばレジンズが始まってから初めての奈良宿泊だ。スタジオの番木に出せなかったが、果たしてどうにかなるのだろうか……。そういえば山長さんにも昔の石切り出しの現場の写真などお持ちでないか伺って見た。ご自身はお持ちでない様子だったが、お母様を通じてみていただけたとのこと。
7月24日 [*]	7:00-18:00	6時前生駒発。6時15分に生駒駅周辺で正木さんと合流して山長さんへ。文化村へ行く石が最初の良いとこの位置に置かれていて、ようやく石の全景が確認できた。良い石だ。時間があつたので周辺散策して山中の石仏々々を見る。近所に石置教会という場所があり、謎の空間を味わう。その後に変生田さん、塩谷さんも到着されて、石がもともと置かれていたエリアを撮影していただいた。7時半頃から石の積み込み。山長さんの無難のない作業に惚れ惚れする。9時頃に文化村へ石搬入。懸念されていた地面部分もダンとクレーンとともに問題なく通過できた。こちらでもみなさんの無難のない作業であつという間に設置が完了した。石設置後、記録物・広報物とワークショップについての打ち合わせ。塩谷さんにファイヤーのラフを見せていただき、かっこ良いデザインと写真に盛り上がる。紙上でクルクルが体現されている……。設置場所が体現されている……。設置場所を早速見て田舎に出していただく(こちらも写真!、石割の写真も確定した)。ワークショップについては、結局鍛造で槍鉋モドクづくり→エレベーターをして、自ら削った鉋でねこまんなまをいただくというプランになった。道具をつくるところから始めて、最後は味覚に昇華。槍鉋をどこまで事前に準備しておくか試しておかなくては。また、この打ち合わせでパラソル設置が可能となったことをお伝えいただき、こちらも感激。だ!おっちゃんに傘を差してあげたいという事の為に様々に障壁があつたが、ひとつひとつ丁寧に解決していただいた文化村の職員の方々の皆さまや太平の方々に感謝。太平さんからすっかっけしてくださいと言っていたが、早速設置。池口さんにも立ち会っていただいた。皆でパラソルを眺めながら話し合い。到着するとお百姓さんスタイルの鳥井さんが登場。なんだかいつもと違う気がして。鳥井さん、こちらが本職か。竹を一本切つていただき、長さや測ると先端削り近まで15mほど。どうにか足りるのだろうか。やってみなければ分からない。運搬の懸念があつたが、竹林で削る作業もしていただきと言っていたが、なかなか足りる気がしてくる。本当に有難い。鳥井さん「竹より舟を見せたいんや」と仰るので、何のことか分からないままに行くとこのタイミングで妻生田さん、塩谷さんとお別れ。朝早くからありがとうございます。鳥井さんについて行く。臺さんから鳥井さんについてのお話を聞き、鳥井さんが只者ではないことを知る。到着するとそこは鳥井さんが世話している畑や田んぼが広がってて、草むらをかき分けていくと大きな池(周囲約4キロ)が現れ、よく見ると池の端に小さな舟のような舟が止まっている。この舟に乗せていただき、鳥井さんと2人で池の中ほどへ漕ぎ出す。舟上では他の場所より涼しく、静けさと眺めがとても美しい。この池は今も鳥井さんはじめ自治会の方々が世話をしておられるとのこと。鳥井さんは毎朝8時にこの舟で繰り出し、日ご美しの水を眺めてから(少い畑作業をして)8時までの文化村での交通整理の仕事に就かれています。この舟に乗らない日は始まらないとのこと。凄すぎる……。いつも皆から馬鹿にされたいやと仰っていたが、今日は自分大喜びしていたので鳥井さんも嬉しそうだった。自分もその方が大切にしてい日常に慣れていたことがとても嬉しい。鳥井さんに出会えたことが今回のレジデンスのハイライトなので、鳥井さんとお話しし、その背中から沢山のことを教えていただいた気がした。文化村に戻ってから再び正木さん、野村さん、平山さんと打ち合わせして解散。
7月25日 [*]	不在	別件の仕事が溜まりに溜まっております。この日はお休みして家で作業(全然終わってませんだ!やばい!)。朝には北野天満宮の骨董市で鉋や鑿などを安く買った。ワークショップで使う軽部用の鉋も、お店の方ですっかっけ買えられてしまった。購入した鉋を改造して四方反り鉋と丸鉋を作らないといけないが、いつもの事ながらそんなことができるかは分からない。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
7月26日 [±]	8:00-19:40	ついで18時に天理駅に到着できた。ホームセンターで物色しながら曲げ機【※p44】のプランを練る。いくつか木材等を購入して怪トラックへ搬入。今日はイベントがあるようであり、人車が入っている。野村さんがスタジオにお越しになり、フライヤーの文字情報などと相談。また、成果発表の予定が組みなのであれば、せめてもう少しスタジオに来た人に情報を渡せるようにしてはという。自分も大変思いださ。これまでのリサーの写真を制作予定の作品の計画図やドローイング等を貼っていろいろということになり、自分は笑えないくらい絵が下手なので避けてしまいましたが、いよいよ何かが描く時が来てしまったか……。でも、スタジオに来るとどうしても少しでも作業を進めてもらえたらにばかり手が伸びてしまう。たまには作業の手を止める時間も作らなければ。太平の方やスタジオにお越しになり、パラルのお礼とお菓子をいただいた。実際のところ自分にはパラルの方が作業だけ明日の、パラルも置くようにしたとのことのお礼を言われるべきは殆ど文化村の職員の方だと思う。ということでお菓子は明日のトークの時にでも置いていただくことにしようと思う。(あれ、でも池口さん明日からお休み!?すみません、今日お渡しすれば良かった……) 風通ぎに曲げ機用の木材の切り出しが完了。曲げ機は他に帯鋼が必要だが、自分が必要とするサイズのもはネットでも全然見つからない。結局、帯鋼を専門に製造している会社を発見したので週明けに連絡したことにした。曲げ機の作業途中で男性がお一人スタジオに入ってくれた。樟のつくり方などについて色々話をする。これも自分でやるのかとか、普通はそれぞれ専門が分かれてやるものじゃないのかとか、色々と驚きつつ言われる。全くその通りすぎて、そうなんですよ……。とか返せばいい。鉋の刃を研ぐ際にも交通整理のおっちゃんに目をやると、風が吹いてパラルがやられている様子。金がなくて安いもの(それでもかなり選んだ)にしてしまったが、こも車ん出入りが多いとパラルを閉じる余裕もなく、危なくなってしまうはかえってご迷惑をおかしてしまおう反省し、もって頭文字そのものを注文。29日に到着予定です。夕方には木材の蒸し機を制作。やかとホースの接続部分に何かかましたいと思案をしたが、その他はおおよそ完成。石作業エリアの準備をしたかったが、曲木関連の作業まででタイムリミットとなった。
7月27日 [□]	8:00-19:00	ホームセンターで買い出し後、文化村へ。トークの準備をする。正木さんと石場さんもお越しになり、文化村の皆さまと会場セティングをした。ダンボールもぎりの準備までしていた(いい写真!)を持ってきていただいた。地域で池を世話する活動をされていることについて、少しだけ教えていただいた。屋通ぎに曲げ機制作。型自体はできたので、あとはプロジェクトの構成をつくる必要がある。15時から交流ラウンジにてトーク開始。少人数だったため、やんわり話をはじめて、今回のプロジェクトのきっかけからリサーチの様子について簡単に話した。スタジオにて現時点での計画やこれまでに作った道具を紹介。正直面での削りも体験してもらった。その後の紹介もして、屋外の作業場へ。石について簡単に話した。はじめての音を聞いてみる。過去の紹介時間まで取れなかったが、また何か機会があれば。トークの片付けも職員の皆様にお手伝いいただいた。片付け後は正木さん、石場さん、野村さん、平山さんと今後の動きなど話して解散。夕方になっていよいよ石彫。珍しく暑すぎない空気が気持ちいい。しかし、久しぶりの石彫で感覚を取り戻すのに時間が必要そう。今回は手彫りというところにして、技術の向上も期待。正木さん、石場さん、野村さん、平山さん、石場さんとの形で同日席された。そういえば、これまでスタジオにて話をする時に3ヶ月かけて制作しますと話していたが、今日で残り2ヶ月月になっている事に気づいて寝癖する。まだ木が曲げられるかどうかでも分らない状況だというのが……。休みの日を考えて実質1ヶ月半もないかも。だからと言って何が出来るわけでもないから、淡々と進めるしかない。ホームセンターにてジグソー返却。
7月28日 [□]	不在	この日、電話等レスポンスできない時間が多くあります。すみません!毎月恒例のクレジットカード引き落とし日。祭り手を発動して3桁は残し、どうにか乗り切った。引き落としが完了した分利用可能額が解放されたので、またカードが使えようになっって安心。これでホームセンターに行く。日中バタバタしてオリメールの確認が遅くなったが、塩谷さんの素晴らしいフライヤーに感謝しつつ返信などする。山長さんからの請求も見直しも通りて胸を撫で下ろし、正木さんに支払い手続きをお願いします。今回のプロジェクト、正木さん(グランパールさん)の存在が無かったら、金銭的なところで到底制作ができなかった。自分の肩代わりをしていただいている事への申し訳なさ、最大限の感謝の気持ちを噛み締めつつ就寝。
7月29日 [△]	8:00-19:40	ホームセンターにパイプラップ用の白ガスマップが置いていないため、少し離れたホームセンターで購入。トラックを借りて文化村へ搬入。曲木に必要な部材なども購入した。この時点でもう普通の木箱づくりの手順とは大きく変わってきた。クラシックの技術ではできる限り研究してきたが、いよいよそれらを発展させて一つ一つオリジナルの方法を編み出していけないといけないけど、どうも不測の事態が発生する……。午前中に交通整理の方々用のパラルを新調。新しいパラルは風が通抜け易くなるようになっており、かなり安定性が増した。風の力の強弱など、勉強になる。あとから太平のスタッフの方がわざわざスタジオへお礼を言ってくれた。かなり安全に作り上げたことので、何よりです。曲げ機制作。力のかかる部分にCRAFT-1にて頂いた板を使わせていただいた。あとは帯鋼を付けた部分のみ。平山さんがスタジオにお越しになり、ワークショップで食べ物を扱うための手続きを踏んでいたというのを教えていただく。元板前平山さんに対応いただけると安心感がある。ワークショップでは参加者が一緒に料理するような形になるため、特別な申請が必要なのは無さそうだが、お米や塵節の扱いなど気をつけねば、帯鋼については会社の方と電話で相談。52mm厚の板を曲げる予定だと伝えと、そんなも出るんかい!?という反応が……。帯鋼の厚さや材質について相談する。現状の計画を図に書いてメールでお送りした。出来る限り早くお返事待ちの状況。途中何人か計画も入ってきたり、簡単に説明する。ダンボール箱と鉋鉋が人気。夕方、北村さんを手伝っていただき石作業場にテントを設置。石にびんのサイズで、とても有り難い。17時頃を過ぎると徐々に涼しくなってきた、風が心地いい。彫っていると時々周りで竹の割れる音も聞こえてきて、音の掛け合いをしている気分になる。文化村職員の方々にも何名か作業を見に来ていただいた。暗くなって作業をやりにくい。石作業ができるのはかなり限られた時間だと分かる。あとは日中もやるかどうか。とりえず怪我の可能性をできる限り減らすため、腕の筋肉が石用に合ってくまで慣らすつつ徐々に作業量を増やしていく予定。
7月30日 [△]	8:20-17:40	フライヤー一枚(ありがたいございます!!)。手に取らせていただくのがとても楽しみです。朝到着してそのまま9時まで石彫。暑い。テントのお陰で日差しを防げるので本当に有り難い。とはいえずにも暑くて外の蛇口から直接水を浴びる。石の粉も流せて丁度良い。誰も見ていませんように。もの凄く量の汗をかいたので、そのまま服も濡った。午前中に帯鋼の会社の担当の方と電話で相談。購入しようとしている金属が50mm必要と勘違いしていたようで(実際に必要としていたのは1mm程度)、聞いた事のない規格のステン(かなり硬い組成)をお勧めされたらしいという事もあったが、なんとか話が落ち着いた。お送りした図面も計画も理解はできるんだけど、本当にそんな事するのかという反応で、今回のプランは普通やらない類のものなのだろうかとか若干の不安が。帯鋼は理想は幅が152mm必要だが、その場合200mmの規格サイズのものか切り出す必要があり、しかしその部材が9月まで必要ないこと、このことで、結局規格150mmのものを使うことに、2mm減る事がきと出るか凶と出るか。帯鋼は長さ2500mm必要なのだが、もし200mm規格だったそれをシャリリングで切断してもう必要があった。2500mm切れるシャリリングで考えながらとんでもない。明日直接引き取りに行くことになったのだが、できればちっとでも機材を見てみたい……。帯鋼の作が落ち着いた後、CRAFT-1でいただいた木材を使って帯鋼取り付け用パーツを作っていたことと、丁度北村さんから電話があった。CRAFT-1は今日作業場を片付けする予定らしい。道具も使える物があれば持って行っていいと言っていたが、お言葉に甘んじていただいたことに、平山さんに車まで運ばせていただき、野村さんと3人CRAFT-1へお伺いする。ご主人も貸し許可を取られたよう。作業場にいらっやったのでご挨拶できた。両隣を拝見されている状況で片付けに来るバタリテに驚かされる。でも、もうお仕事をこなされて、警や鉋などかなりの数の道具を頂き、ただただ恐縮するばかり……。どれも必要なものばかりなので、大切に使用させていただきます。今回の制作にも早速いただいた道具を使わせていただくことになるが、それらを使って作品が出来たら見せていただきます。作品は不確定要素が多いが、なんとか形にしていきたい。CRAFT-1での積み込みと積み下ろしを平山さんと野村さんにお手伝いいただき、無事スタジオに帰還。本当はホームセンターへ行くつもりで車に乗せていただくはずが、お屋になってしまった。お時間いただいてしまい申し訳ありません。曲げ機制作も順調に進み、残すところ帯鋼を待つのみとなった。スタジオの換気用のファンターがまた詰まってきたので掃除。曲木のテストの目処が立ってきたので、正木さんと連絡。8月3日(日)の午後決行となる。野村さん、出勤日を変更したく訂正してしまい申し訳ありません。正木さんから、制作費の一部を前倒しでお支払いいただくよう会社に掛け合ってくださいていることを教えていただいた。本当に有り難い……。お金枯渴問題にはよくおっやだ。いつもは自分一人て耐え抜けばよかったので、こうして気がかけていただけたこと自体が何より。前払いの程に関わりず既に十分助けられた。自分へのはいもの事なので、これ以上はどうかお気にならずです!多分周りも思っている程自分にはありません。先日はお金への戒めのために(そして、何気に制作に直結する内容のため)書きました。ちなみに、今日丁度別件の仕事の報酬を得ることができ、なんとか明日の帯鋼のお金を払えそうです!素晴らしいタイミング。3日は、できればランチの待ち時間を利用して鍛造用の炉の手もお伺いということになった。帯鋼は電車で徒歩まで運べないだろうと言われ、レンタルカーを予約。今夜中に借りる必要があり、早めに文化村を退出。帰り際に少しだけダンボール箱づくりをした。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
7月31日 [△]	13:00-17:20	午前中大阪にて仕事の後、帯鋼を購入しに東大阪の会社へ……。何故か従業員の方々(5名ほど)全員にお迎えされ驚いてしまった。どうもかなり珍しい注文だったらしく、みなさん気がなっている様子。使ってみてどうにか教えて欲しいとのことでしたので、また曲木の結果をご報告差し上げようと思う。商品を納めるだけでなくてその後にも興味を持っていただいたらいいな。購入されていただいた帯鋼はかなりコンパクトに梱包していただき、結局レンタカーは必要なかったのは……。嬉しい文化村へ向かっていると、ちょうど北村さんか連絡があった。CRAFT-1の片付けをまだ続行中とのことだったので、そちらに目的地を変更。木材の作業物を解体したり、場内の荷物を外に出して作業して、途中お越しになったCRAFT-1のご主人にご挨拶(何度お会いしてもパラルの方だなどと思う)。まじまじかつ木材や道具などもお譲りいただきました。車の返却時間も早いので最後までお手伝いできず無念。自分だけ早めに退出させていただきます。文化村に荷物を置いていただき、帯鋼の梱包を最後まで普段使っている鉄材と全く違うので驚いた。焼き入れ鋼板のためかなり硬そうだが、穴開けられるんだろうか……。車を京都で返却する必要があったため、穴あけ曲げ機制作の作業は諦めて、いつもより早めに文化村を退出した。
8月1日 [△]	不在	正木さんより、制作費の一部を前倒ししてお支払いいただくことが可能になったことご連絡をいただいた。本当に有り難い。これでかなり安心して制作を進められます。
8月2日 [±]	不在	恐らく殆どレスポンスできません。すみません!
8月3日 [□]	8:30-20:00	曲げ機制作。帯鋼にボルトを入れるための穴を開ける作業でかなり苦戦。帯鋼が焼き入れ鋼板のため非常に硬く、ステンレス用のドリルでも開けられない、というか、刃が砕けた。石用のドリルの刃を削って鋭利にし、ハンマードリルで開けることにした。穴を開ける度に石用のドリルの刃がみるみる破壊されていったが、ステンレス用ドリルに比べればこちらの方が強度はあるらしく、どこにか開けかけたことができた。ドリル刃をたくさん消費して、焼き入れ鋼板の硬さを思い知った。午前中に正木さんと石場さんに到着させ、お屋風にホームセンターに連れて行っていただいた。曲木治具用の清車等を購入。風を過ぎても、どこにか曲げ機が完成し、蒸し機【※p46】と曲げ機のテストのため道具類を石作業場へ運搬。野村さん、平山さん、北村さん、正木さん、石場さんにお手伝いいただき、一緒にテストを実施。ワークショップでは鉄筋を鍛造しようと思っているが、石壁で受けて比べてもそこ柔らかい。これならなんとかなるだろうか。大人数で一気に鍛造を体験するのは難しかった。人数が多くなった2回にグループを分けて実施することにした。また、鍛造体験に併せて「さわる」展にも行ってもらい、本物の道具や制作物なども見たりうえで準備づくりをすれば、より濃い体験になるのではという話に、ワークショップの流れや時間の使い方などのオペレーション面は、作業のテストも含めてもう少し詰められる点が多そう。18時すぎ、試しに木を曲げてみることにした。正木さん、石場さん、野村さん、平山さんにも作業を手伝っていただき、木材を曲げ機にセット。今回は一人て53本準備しないといけないので、うまくセティング方法を考えなければなりません。曲げ機で木を締め始めるのと、ワイヤーを通して金具が破損(正確には、金具を留めているビスが力に耐えきれず折れた)。金具の付け方を変えてもう一度試すと、今度はワイヤーが切れた。ワイヤーそのものの耐荷重は問題なかったが、金具との接点に強い力がかかり、そこから切れてしまった様子。結局その日は木を曲げることとはできなかったが、ワイヤーが切れるまでの段階では木自体は曲がっていったので、もしかしら曲げ機の強度さえうまく確保できれば何とかできるのかもスムーズに生かせる。蒸し機はやはり3時間が良さそう。午前中に1回、夕方に一回のペースでできると良いが、そんなにもスムーズに行けようか、というかその後の作業を連れること、このペースで間に合うか怪しい。その後、曲げ機の改善案を考え石作業場を撤収。帰りに正木さんにホームセンターで連れて行っていただき、太いワイヤーロープや清車を購入。重い物ばかりだったので、車に乗せていただき当人に助かる。今日はスタジオに一般の来訪者もちらほらあり、また石作業場に文化村の職員の方々もお越しになったので、いろんな人にお会いした一日だった。お手伝いいただいた野村さん、平山さん、正木さん、石場さん、お屋外でも遅くまでありがとうございました。お疲れが出ませんように。家に帰ってから熱中症の症状が出ることもありますので、どうかお気をつけて水分しっかりとってください。
8月4日 [□]	8:20-20:00	曲げ機を改良し、テスト実施。前回同様3時間の蒸しにした。曲木作業の際に野村さんと北村さんにお越しいただき、手を貸していただいた。新品のワイヤーで癖がついていないためスムーズに締め辛く、少々苦戦もなんとか無事締め上げることができた。クラブの取り付け改良が必要も思われた。木を蒸している間は石を彫ったり曲げ機のセティングなどをしていたが、あまりに暑くて15分ごとに頭から水をかぶって何とかしのいだ。曲木作業が終わる頃には流石に疲れてしまっって、スタジオに戻って昼食をとった後に最上までテントを張って睡眠。セッティングで起きるより、1時間くらい寝てしまった。往復5時間かけて屋上での作業はなかなか大変でもあったという。でも、その後の作業はかなりマシになる。午前中以外作業がある場合はシエスタを導入してもいいかと思う。昼寝の後2本目の正面直面を削り、16時頃にCRAFT-1に再び屋外へ。木を蒸しつつ石彫。野村さんや北村さんと館内アナウンスの実施なども相談したけど、看板の設置など、石の作業場へ入る作業する方策を色々と考えていただいたという。あがりた、19時から2度目の曲木。今度は蒸し時間2時間半にしたが、曲げるこ自体は問題なさそう。明日固定できない際の戻り具合をみて蒸し時間を判断する。それにして、曲げ機の固定を外した際にも木もその状態のまま2度戻すより戻す方が良かったが、側板の寸法はそれを計算しに入れていない。曲げ機が当初の寸法より湾曲が強く出てしまったことと、その分を最後に締め直さなければならぬ可能性が出てきた。最後に全て板を合わせた状態で一気に締め上げるなどの方法をとることになるかもしれないが、その場合の締め上げに必要な力は計り難い。夜、曲木を終えて閉店間際のホームセンターで買い出しをして帰った。そういえば、これまで10時すぎくらいに一食ごはんを入れて日4食で続けてきたが、午前中に曲木作業が入った関係でできなかった。体力を持たせるために別の方法を考えなくては、明日もすぐ曲木作業を行いたい。次の正面直面の削りが完了している。全体の作業の流れをスムーズにできるように、毎日の時間の使い方を検討してい必要がありそう。ひとまず明日は午前中に削り作業を行い、午後とできれば夕方に2度曲木作業を行うこととする。少なくとも1回3本できるようにならぬと、その後の作業がかなり厳しなる。
8月5日 [△]	8:20-20:30	午前中、正面直面を2本分別り終えたのちに前日の曲木を取り外した。2時間半の蒸し時間も曲げ具合は同様となった。締め方の改善よりやり直しも無くなった。しかし、やはりもう少しづつづつに曲げたいと思ひ、悩んだ末に曲げ機をさらに削ってもっときつめの角度の面面にすることにした。曲げ機の両隣に金属があることにより削るのに一時間かかると。あまりの暑さに途中で断念し、スタジオにて遅めの昼食。少し寝ないで体が持たないと思っでシエスタメニューにしたが、これが間違いだった。テントの中が居心地が良すぎるのか睡眠不足なのか、全然起きず、また1時間半近く寝てしまったかもしれない。慌てて再び屋外へ繰り出し、曲げ機削り作業を始める。結構な量を削らないといけないが、鑿と鉋なのでやってもやっても終わらない。ようやく曲げ機が出来たのが19時頃。差し金も使いつつ削ったので、バージョン1.0より良い面が出てきたと思う。野村さんと平山さんが削り作業の途中からお越しになり、暑いのに立ち会っていただいた。蒸していた木材を一本曲げ機に装着して曲木テスト。カーブが急になってうまく曲げられず。冷ましてもすぐに片付けをして、1時間後に型から取り出した。前よりは良いかもしれない。とはいえ、結局最後まで正面直面を削って調整するプロセスが必要になりそう。20時より2本目の曲木。こちらも問題ない。型から取り出すタイミングがどれくらい適当なのか、明日本目と2本目を比べて検討してみたい。諸々終わったのが20時頃過ぎた。遅くまで野村さんと平山さんに立ち会っていただき、本当に恐れ入ります。これから毎日のようにやる作業ですので、ご心配なく放っておいてやってください……。どうかお疲れが出ませんように。野村さんと平山さんから、歴史の職員の方(技師さん?)からワークショップの際に道具についてお話しすることができると聞いて教えていただいた。とても楽しみ。今後打ち合わせなどをさせていただきます。夕方には文化村職員の中筋さんにホワイトボードの絵を描いていただいた。グングルを絵に描くのは難しいと思うが、とってもいい感じを描いていただきました。自分は絵は全然駄目なので、来た人に分かりやすいサインを描いたり作ったりしていただけたらいいな。本当に助かる。野村さんや他のサインも色々とお褒めいただき。このサインもお願いしていただいたのが嬉しいですが、お盆明けくらいは今より人が来やすい状態になってほしいと思ひ、自分もスタジオをもう少し片付けねばと、やっぱり何か揃えないととか、色々と思うが、毎日思うばかりで全然余裕がない。言い訳せずに頑張らなくは。そういえば、パラルの一件の方、交通整理の方とはすっかり顔見知りになり、石作業場との行き来の際や毎日の行き来など、出合った際にはお互いに声をかけあっている。ご数日の作業で日差しの辛さを身をもって経験し、彼らと向き合っていく想いが湧いた。いつも暑い中ありがとうございます。パラルに降は雨がきてるわけでもないのだが、会った時に声がかかって、一瞬はごんごんと降ってきた。自分も曇りを粉らわせていただいている気がする。今日は家に着くのが23時すぎ、いつも朝時頃に家を出ているので、お夏エタのぶん早く帰ったほうが良い気もしてきた。もはや何が何だか分からなくなっている。明日はスタジオにて正面直面削りから始める。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
8月6日*	8:20-16:00	【※日誌見当たらず】
8月7日*	8:20-17:00	ひたすら正面面削り。正面台の鉋を研ぐとかなり作業性が増すことが分かったため、今回はこまめに研いでいこうと思う。7本削って終了。外作業の体力的なハードさに紛れて分らなくなっていたが、正面面削りが結構大変いうことを思い知る。富士山に戻ったらまた頑張らなくては。
8月8日* 8月9日± 8月10日 ^日	不在	富士山は何の課題もなく、拍子抜けするくらい楽に登頂できた。同行者の荷物を追加で背負ったり周りの人のサポートもできるくらい余裕もあった。制作より楽だし、どちらかというと梅田に半日いる方がキツイ。富士山については、事前に知人から変化がなくなつたらないという話をよく聞いていたがそれがそれらしい意味で裏切られ、たくさんの良い石や自然の造形を目にすることができた。修験道をはじめとする信仰の姿など、お山との関わりや歴史についても様々な知ることができて大変良い刺激になった。今回の制作によっていい影響を与えてくれるものになったと思う。
8月11日 ^日	8:20-19:40	ついにフライヤーの実物を手にすることができた!かつていい写真とデザインで、本当に嬉しいです!斐生田さん、塩谷さん、内容を調整いただいた関係者みなさま、ありがとうございます。スタジオで作業している、前のスペースに配架されているフライヤーがどんどん手に取られていているのが見えます。フライヤーに負けないよう、自分の作業も頑張らなくては。そして塩谷さん、お中元ありがとうございます!灼熱の作業に果物ジュースは天国すぎます。外作業の日にキンキンに冷やしていただきます!今日は天気が悪かったので、まだまだある。途中、野村さんにダンボール薪を買ってみていただいたり、北村さんや野村さんがスタジオ内いっしやる時には訪れた人に話しかけてりして対応していただいた。作業に追われているのでとてもありがたい、スタジオ内にも何処か入るべく来てくれて、色々とお話した。前の文化村の村長もお越しになった。間違いないとこれまで一番やばいと言われたが、作業の終わった後となごなか部屋から引き合のとなごなか判然としなくて苦笑いで誤魔化しかけた。すみません。施設設立上げの時の経緯なども少しだけお聞きした。色々事情があったのだと思うが、使う方としては勝手に必要な形に手を加えていただいたというのでそれを許しているだけ有り難い。明日も正面面削りを続ける予定。
8月12日*	8:20-16:30	引き続き正面面削り作業。材の幅が大変なものとなる削るのが大変になっている。昼頃に平山さんと野村さんのホームセンター買い出しに便乗させていただいた。買おうとしていたレバークロックは高温すぎたので諦め、ネット購入することにした。今日はいつもより早く退出。正面面削りは残り12本。
8月13日* 8月14日* 8月15日*	不在	お盆休みいただきます。
8月16日 ^土	8:10-20:00	曲木作業と石彫。どうにかして日のうちに行える曲木の回数を増やしたいと思い、蒸し時間を2時間半ほどにして、早めに型から外してからレバークロックで再び締め上げる作戦にした。レバークロックでの締め具合をどの程度にするのが適当なのか、この方法できちんと曲木ができるのか、明日レバークロックから外した状態を見て検討する。今日は一般の方が何組も石の作業場に見学に来てくれた。野村さんや平山さんに日々バージョンアップしていただいているサインのおかげかもしれない。蒸し時間中は石彫をしていったので、昼食時以外はほぼずっと外作業。お盆前より暑さのピークが少し減ってきて、お休みをいただいた後だったことあってか蒸すたなして続けられた。赤錆始め飛び始めている。立秋も過ぎても、もう少し秋だ、とはいえず、水は10分ほどに頭かかぶらない無理。結局、どうにか4本ほど曲木ができたので、明日の結果を見て大丈夫そうであれば、これで進めよう。毎日このペースだとさすがに体力が持つか心配はあるが、ひたまずやってみようと思う。帰りの電車が大阪方面の沿線火災の影響で遅まいる。果たして無事に帰宅できるのか……。
8月17日 ^日	8:10-20:00	引き続き蒸し&曲木と石彫。石は穴が少し深くなってきて、早速短い鑿が使いつらなくなってきたので、彫る作業と並行して長めの準備を進めることにした。午後で休憩が終わるがスタジオで正面面削りを一本進めた。親子連れが訪れてくれた後、正木さんご家族と一緒にお越しになった。外の作業場で北村さんとも一言お話を。お困りありがとうございます。そういえば、何故か朝から頑張れる曲木の日に5本できるのでは!?と際際していたが、終わり頃になって4本の間違いだと思いついた。日が沈んだ後、ヘッドランプをつけて今日の最後の一本を曲げようという際際に治具のチェーンブロックが壊れ、うんともすとも言わなくなった。かなり手づつでスタジオの退出が5分ほど遅れしまった。申し訳ありません。結局、型から外したあとの固定用のレバークロックを曲げ機側のチェーンブロックに差し替え、固定用にラッシングを自動させたが、これではパワーが足りないというところが判明。泣く泣くレバークロックをもう一個注文した。レバークロックが属々まで曲木は1日3本までです。また、曲げ機のワイヤをかけた際にボルトがずりかかりかけてしまい、こちら状態を注視していく必要がありそう。まだ10本程度なので、終わるまではいつかつパートの警備員といくかもしれない。
8月18日 ^日	8:20-19:50	休館日のためいつもの出入り口が使えない状態だったが、いつも大荷物を出し入れているのを見てくれていた警備員さんが手動でガラス戸を開けられるようにしてくださった。今日は荷物の出し入れも多かったので本当に助かりました。朝、文化村職員の松長さんと9月の始見向けアートプログラムの打ち合わせ。ダンボールを素材にプログラムを実施するとのこと、14日にダンボール薪やそれを使って行う制作についてなどお話しさせていただくことになった。20分間だけではあるが、子供たちからどのような反応ももらえるか楽しみです。今日はまた少し前の書きと逆戻りしており、外作業時の体が重い、長い鑿の準備などする。蒸し機の内側の棚に使っていた角材が駄目になってしまったので、ホームセンターへ買い出しに行き、ボルトを換装した。また、午後から突然の雷雨の可能性ありとの情報があり、急いで電気器具の仮保護のための屋根を作成。結局雨は降らなかったが、これで今後突然の雷雨に対応できそう。レバークロックが足りなかったが、ベルトラッシングで無理をしてなんとか4本の曲木が完了。昨日、正木さんから吉野エリアの製材所で火事があったらしい話を伺った。吉野中央木村さんかはわからないし、人的被害はなかったようだが、建物や設備の被害の状況など心配。
8月19日*	8:20-19:50	引き続き曲木作業。朝何時から蒸し始められるかでその日の終わりの時間が大きく左右されるため、朝はかなり慌ただしい。日中は暑いので蒸し待ち時間に石彫りもワークショップの準備などを優先した。16時から文化村内の歴史的建造物修復工房の奥まで行きと打ち合わせ。工房にも案内していただき、道具をたくさん見せていただいたり、鉋や鉋鉋、新道具や少し使わせていただくことができて、貴重な経験になった。どの道具もよく研がれていて美しい。鉋の裏刃や台の仕込みも、平鉋を四方反りに改造できるかなど、技術的なこともお伺いすることができ、個人的にも興り多い時間だった。よく考えたら木工技術に関して人に教えたことはいったのは人生でこれが初めて。堀の内師匠、ありがとうございます。修復の工房を見ていただいた後は自分の作業場(屋外)へご案内した。普段から作業している方とあって、目の付け所が一般の方々と違って面白い。お忙しいのに長い時間をお願いしてしまっただけが、楽しんでいただけたらと思う。曲木作業は一番幅の狭い108mmの材が終わり、122mm幅の材に突入。幅が広がると分曲げるのが大変になった。この先まだもう2段階ほど材の幅が増していくが、クランプなど追加しなくて大丈夫かどうかな不安があるが、とりあえずいいところまでそのまま進めた。この日もいつも通り4本完了。日が暮れから、ファンタズを外して石彫る。風も車の音もなく、あたりは木の音にだけ包まれていて、気持ち良く鑿を叩いていける。ただし蚊の餌食にはなる。
8月20日*	8:20-19:40	曲木作業と並行してワークショップの準備。朝から耐え難い眠気に襲われ、1本目の木材を蒸している間にテントで仮眠。連日の睡眠不足で溜まっている感じが、どうでもいいがこのテントでひとりで眠るとアラーム通りに起きたことがこれまでに一度もない。今回も例に漏れず、魔のテントにやられる。なんとか蒸し終わりに間に合うように起きたら良かった。風に乗師寺の小学生向けプログラムの一団が訪れ、正面面削りなど体験していった。皆ともしっかりしており作業の説明も理解が早く驚いた。午後には平山さんと野村さんにホームセンターに連れて行っていただいた。自転車牽引カードで炭を買おうとしていたので、車に乗せていただきとても助かりました。ありがとうございます。ワークショップの購入物品については一通り揃ったと思われる。あとは作らないといけないものがいくつかあるので、明日頑張らなくては……。そういえば、数年前の吉野でのMINDTRAILでは作品を見たいという親子がたまたま見つけてスタジオに見に来てくれた。数年前の展示だが覚えてくれて嬉しい。今日も曲木は4本完了。結局石彫をする間もなく一日が終わってしまった。そういえば、スタジオでの晩ごはんもすっきりお馴染みになってきた。4本目の曲木作業を終えてからスタジオに荷物を運び込み、電車に間に合うように急いで帰宅した。帰宅が22時〜23時くらいになるので食べるにお腹がもたない。あとはスタジオで泊まれたらほぼ動物園の猿のアーティスト観察システムが完成しそう。翌とテントはなくなるからいつでも出来るんだけどなどと思いつつ、毎日自分の布団で寝るのでこれはこれで良いかなとも思う。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
8月21日*	10:00-19:00	曲木作業とワークショップの準備。火を起こしてワークショップ用の鉄を叩いていく。文化村の職員のみなさまもお越しになったので、鉄を叩く作業を体験していただいた。午後は三重からは曲木と石彫さんにも体験してもらった。この方々にも体験してもらったので、鉄を叩く予行練習をお願いした。夕方に修復工房で仏像修理に携わられている美術院の方がお2人でお越しになり(お2人とどうも文化で彫刻専攻だったとのこと)色々とお話した。春日大社の暹太鼓の修復は美術院さんが担当されるとのこと、太鼓の内側の骨組みについて尋ねるも、そこでもちゃんと見てなかった……と言われた。修復についても、痛みの具合とか使うような形を保存する方向に舵を切られたらしく、実際には側面の継ぎ目も隙間だらけで漆と砥の粉でかなり埋められている(埋められているのは元々か?)。ワークショップ用の火造り【※p23】のついでに石鑿用の鉄も焼き入れして石を叩いてみたが、あとという間に先端が潰れる。これでは使い物にならないので、何か対策を考えなくては。曲木は4本完了した。平山さん、野村さん、連日朝から晩までワークショップの準備ありがとうございます。
8月22日*	不在	京都で別件の仕事が入ってしまい文化村に行けず。家で鑑削り用の鉋の箱を制作。
8月23日 ^日	8:20-17:30	ワークショップ「鉄鉋グランド」。朝から急いでスタジオの片付けと火造り場のセッティング。また、枯削り用の削り馬を急遽制作した。交流フランチの準備などは、文化村の職員の方や正木さん、石堀さんにつきりお任せになってしまった……。ありがとうございます。ワークショップには県内外から、また子供に大人、アーティストやそうでない方など、少人数のわりに様々な属性をお持ちの方にご参加いただくことができた。軽く導入を済ませてから自分は火造りの準備に取り掛かったが、修復工房の見学を終えてみなさんキラキラした目で火造り場にお越しになったので、きっと修復工房で良い体験をされたのではないだろうか。堀の内さん、ありがとうございます。これから、さっき本物を見ていただいた鉄鉋をつくりますとみなさんに伝えようと、ええ!?!な反応だったが、ハードルが上がりがすぎたのだろうか?しかし、本物を見てイメージより具体的にできているようになったのではないかと思われる。鍛造作業が始まるとみなさん真剣なお顔に。熱して赤くなった鉄に良い反応がもたらえて嬉しい。作業は、それぞれに叩き方が違ってとても興味深かった。鉄を叩いて伸ばすだけでもどこまで個性が出るのか。それにしてもみなさんお上手で、2人の子供さまでいっしょに叩いていくのでこちらが驚かされた。こちらも盛り上がりすぎてたくさん叩いて欲しいくらい、時間が予定よりオーバーしてしまっただけ、無事全て鍛造が完了。グラインダーで粗く研ぎ仕上げたスタジオへ。研ぎ作業もみなさんに体験してもらったが、こちらもみなさんお上手。研ぎを体験してもらった後に鑑削り開始。正直、槍鉋もどきでこまでもちゃんと割れると思っていなかったのですが自分でも驚いた。突当りが、削り馬をつけておいた良かった。槍鉋のあとに台鉋でも鑑削りを削ってもらい、それぞれにお食事して終了。すっきり時間をオーバーしてしまいい申し訳ありません。工房の見学から鍛造、研ぎ、鑑削り、食事と盛りだくさんの企画でしたが、なんとか無事事故なく完了できたのはスタッフの皆さまのおかげです。ありがとうございます。そして素晴らしい参加者の皆様に拍手、自分にとって、たくさんの良い刺激をいただいた一日になりました。皆さま、ありがとうございます。ワークショップ後は塩谷さんからはお中元のジュースをいただいた。作業の後のジュースで身体が潤う。塩谷さん、ありがとうございます!その後、曲木作業のプロセスを斐生田さんに撮影いただいた。
8月24日 ^日	8:20-19:30	通常作業再開。日中は曲木作業と正面面削りを中心に進めた。曲木作業は9月に入っても続きそう。分かってはいたし想定よりは早い進んでいるが、それでも作業ももっと早く進められたらなど無理なことを考えてしまう。仕方がないの淡々と進めるしかない。曲げると曲木の幅がまだあと段階増すことを考慮して、曲げ作業のプロセスを一部変更。これまで少しスムーズに進めるようになる。ワークショップの準備でしばらくできていなかったが、久しぶりに石も彫れて嬉しい。夕方に石を彫っていたタイミングで、石の作業場に若いカップルが訪れてやけに熱心に話を聞いてくれたので何かやっている方ですと伺った。彼氏さんの方が面談をやっているそう。石について聞かれたのは生駒石系と言うと驚かれ、よく生駒石だと彫りまわると言われた。生駒石、やはりかなり硬い部類らしい。日が暮れて3本目の曲木を外したあたりで雨が強くなり降り出し、4本目をセツとするタイミングで土砂降りになり、あたり一面のうらになり、自分もドロドロになるもなんと曲木は終了された。全身びしょ濡れで風邪を引いてはまずいと思い、少し早めに退出した。帰りの京阪電車が雨と落雷で全線遅延具合と合わせて帰るのに難儀した。びしょ濡れで電車の冷房はさすがに冷える。翌日は夜行バスで東京まで体調管理をしっかりなくては。
8月25日 ^日	不在	ちよいと病院行ってきます!すみません!
8月26日*	不在	夜行バスが朝早く到着したので色々調べていたら上野に石工屋を発見。ついに日本で3軒目の石工屋を見つけた……!お店の方に色々話を聞き、ハズリ機用のノミなど長めのものを買わせてもらった。かなり重たいが、これが生駒石にも耐えうることを願う。午後、野村さんに曲げ機にはまったままの側板を外してスタジオに入れていただいた。暑いのにありがとうございます。曲げ機も側板も雨の影響を受けていないことを願う。
8月27日*	8:20-19:40	曲木と石彫。正面面削り作業。今日は朝から斐生田さんに作業の様子を撮影に来ていただいた。カメラよろしく良い環境下にも関わらず、攻めの撮影をいただきありがとうございます。正木さんとGallery PARCの今岡さんにもお越しいただき、作業を見守っていただきながら一頭張った。差入れとてもとても嬉しいです。業務スーパーシリーズもありがとうございます……!残り1ヶ月、これをいただきながら頑張ります。帰りに野村さんから現在の活動について説明するイベントを見せたいです。説明関係の情報を何も用意できておらず申し訳ありません。すっきり作業に追われているので、とても助かります。曲木はやはり直しの物も含めて残り18本。やっとなら約3日が終わって。正面面削りは残り2本。なんとか曲げ機が壊れずに持ち堪えてくれと願う。それにしても今日は涼しかった。毎日こんな感じだといいな。
8月28日*	8:20-20:20	引き続き曲木作業と石彫。正面面削り。ついに正面面削りが終了した。作業の合間に少しずつ進めてきたが、それにしても時間がかかった。これで明日からは曲木と石彫がメインとなる。単管の準備も少しずつ進めておこうと思う。今日は日中はまた曇ったが、夕方になると涼しくなって作業が捗る。石は穴が深くなくてまだまだだ……!どんだん彫りになってきた。彫り進めるペースが遅くなってきている。遅くならぬほど石を彫っている実感も湧いてくる気がする。今日から、夕食をとってスタジオの鍵を返却した後には少し石を彫ってから帰ることにした。夜は虫の音だけで風も無く、鑿を打つ音がよく響いて気持ちが良い。
8月29日*	8:20-19:40	曲木作業と石彫。昼間に単管の位置決め。鑿、鉋、鉋をいくつか研いだ。昼間は相変わらず蒸す方がつらいが今日は涼しく、石彫はかどる。穴が深くできてパラボラ状態になっており、彫る音が耳に直撃するようになった。試しに耳栓を使ってみたところ、耳のイメージは無くなったが何だかもう彫れない。どうやら鑿の当たり具合を音で判断していたらしい。仕方がないの耳栓は使わないことにした。最近一時的な難聴になっており、人の声が聞き取りづらくなっているの、ほどほどに音が聞こえる耳を塞ぎさない耳栓はいいのかなどと考えた。翌日のワークショップに備えて、今日は延長戦まで帰宅。
8月30日 ^日	不在	滋賀の「山中SUPLEX」にてワークショップ参加。
8月31日 ^日	8:10-20:30	引き続き曲木作業と石彫。午前中はタガの組み上げ用の単管を組んだ。今日はまた日差しがきつい。日曜日だから人が多く、家族連れで何組かスタジオや外の作業場にも来てもらった。わざわざ外まで来てくれる方々は、迎い着くまで大変だけれど、その分前の方にいられてくれる。石を彫るのをやってみたり、木をまじまじと観察したり、カナルを直して貰ったり、賑やかだった。創作関係の仕事ではなく普通に働いてますという子供連れのお父さんは、石を少しずつ彫り進めるのを見て何故か「やっぱりいいよな、俺も頑張ろう」と言っていた。こちらからは計り知れない気付きがあった様子。謎。この文化村クリエイション事業の前担任担当者もお越しになった。運々見に来ていただきありがとうございます。夕方、野村さんからドロイングと図を描いてほしい旨をお伝えいただき、かなり前から言われており、描きますと言ってくださったのがおなじみでそのお話を聞いてほしい旨を伝えていた。野村さん、申し訳ありません……!自分としても、いつも作品が売れない物ばかりでドロイングが唯一買ってもらえる可能性がある物であり、少しでも制作費を補填するのにもドロイングを描かなくて、展覧会のたびに思っていたのでもした(不純な動機ですみません)。決してばらけ側面組みでバタバスうのだが、なんとか時間を設けて何か描かぬば、先日、防音されない耳栓というものを聞いてくれたので、早速買って使ってみました。聴覚過敏の方や音楽のライブで耳が疲れる方などか使ってもらいたい。石鑿の打撃音が程良し抑えられて、多少の彫りにくさはあるものの、これなら音を痛まずに楽しめる。曲木は、このまらラブラブルの仕上げまで終わりそう。3日にタガの組み上げのためのセッティングをして、3日に試しにやってみる感じか。やはり単管や単管管クランプがもっと必要にしろ……また買うのか……。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
9月14日 ^日	8:10-20:30	文化村の幼児向けアートプログラムに参加している子供達が午後から来てくれるため、午前中は彫削したりして場を整えた。松長さんと野村さんと打ち合わせして、ダンボール薪をいくつか作った。どんな反応をもらえるのかドキドキ。13時半すぎにみなさんがお飽きになり、まずは何も伝えずにスタジオ内を巡ってもらった。正面台は滑り台なんじゃないかとか、何で穴が開いているだろうとか、鏡筒がクワッサンみたいとか、自分の予想していなかった反応がたぐさん。それにしても子どもとも思考がしっかりしている気がする。スタジオ内に色々な素材で溢れていたこともあったのか、いろいろ手にはそれらに釘付けになってしまい、自分の話などもは不要、とにかく目の前の素材に触りだり遊んだりすることに夢中になっている様子にあげられて。途中、何度か松長さんが皆の注意を惹くように促すと、皆すつとちらちら集中するのぞ驚いた。子供たちとのプログラムを続けてくれる中で、彼・彼女らがうまく引込まぬ技を生み出してこれたのではないだろうか。子どもたちからも、幼児チームの皆さまの振る舞いからも、たぐさんの学びと刺激をいただきました。ありがとうございます。これも文化村だからこそ実現できる出来事ですね。子ども達が帰ってから運木の履食を取り、外に出た台車の単管枠を解体。野村さんにもすつかりお力を借りてしまいました。その後、単管を組み直して台車にして台車の上には又を組み直しても、タルがデカすぎてすぐ又には当たってしまっていて上げられないことが判明、もう一つの方法に切り替えることにした。タル、台車、生駒石の順に横並びにして台車からタルに向かって坂をつくり、タルと石をベルトスリで連結。石を重しにしてレバーブロックで坂を引上げて台車に載せるといふプラン。作業を始めるところで幼児チームの皆さまがお越しになり、立ち会っていただけることに、昨日のタルひっくり返し作業や今日の単管バラし作業でも思ったが、側に誰かにいていただけるだけでもこんなに安心感が違うものかと思う。結局そばにいてももうだけでなく手もお借りしてしまいますが……!タルの台車への引き上げは、単管が曲がったリラッキングの金具が丁度単管に引っかかってしまったり、スリリングが一瞬外れたりとの問題が続出したが、皆さまに助けていただいた、2時間かけてどうにか上げることができた。気づいたら20時をすぎている。みなさん今日はきつと既にお疲れだったと思うのですが、遅くまで助けていただき、立ち会っていただき、本当にありがとうございます。今車に乗ったタルの響きを確かめようと音を鳴らす頃、ちょうどどこかで行われていた火花大会もクライマックスになっていた。火花の音とタルの中で木を鳴らす音が混ざり合いながら、辺りに響いて消えていく。鳴らなくなってから皆で古墳に登って奈良の夜祭を眺めた。夏の終わりの夜を存分に楽しむ気がする。展望スペースに登って上からタルを眺め下ると、台車に乗ったタルが幼児チームからお借りした照明を浴びてドラマチックな光景になっている。台車に乗ってから一気にワケの分からない見目になった(いい意味で)。タルの穴を通して向こうの景色が見える感じも不思議。ちょっと異様な感じもする。明日、明るい時に見たらまた違う風に見えるのだろうか。
9月15日 ^月	8:10-19:40	午前中はタル台車の補強作業。正木さんと石場さんがお越しになり、単管を組み作業を手伝っていただいた。単管クランプが足りなくなってしまうが、まさかの正木さんからクランプの差し入れをいただいた。単管クランプを差し入れにいただいたのは人生初です。ありがとうございます!昼食後も台車の補強と木材でタルの台座制作。斐生田さんもお越しになり、野村さん、平山さんとともに21日の打ち合わせなどする。その後、斐生田さんにタルの内側を削っている様子を写真に撮っていただいた。正木さん、平山さんとも本日になった。北斎の(尾州不見原)をリスペクトで同じ恰好[※p4]で撮っていただくとしたところ、姿勢をつくるのがなかなか難しかったが、斐生田さんの熱血ディレクションのおかげで謎の盛り上がりを見せながら何とかそれとなくの撮ることができた。斐生田さん凄かったです。ありがとうございます!興味絵巻に実際に再現してみると、描かれるような形がどれほどつり込まれているかを実感できて知ることができ、それも非常に興味深かった。火造りの様子や石を彫る様子も音メーターに撮っていた後、タルと石とを連結していたスリリング切り離してタルを台車に固定、野村さん、平山さんにも加わっていただき車運行のデモをした。思ったよりもスムーズに動いてくれて一安心。辺りはすつかり暗くなり、秋の虫たちの音とタルの中で鳴らす音が混ざり合せて心地よい。移動しながら鳴らしている、タルの向きや場所によって聞こえ方も変わっているような気がする。しばらくタルの中で音を鳴らすのを楽しませていただき、本日の作業は終了。みなさま、遅くまでありがとうございます。
9月16日 ^火	不在	恐ろしいだけの時間は電話対応可能です!作業したい……。
9月17日 ^水	8:00-20:20	朝、二階堂のホームセンターへ寄って足場板購入、タル内側の補強材として使えたらと考え中。積み下ろし後整トラックを返却して再び文化村へ。今日の別件の仕事で発生したゴツゴツが尾を引いておりなかなか集中できません。村長にも外までお越しいただいたのに電話中でお話できず申し訳ありません。午後からは石彫を進めて、途中休憩でたら蒸し機のお話を聞いた。明日とも感じ休時時に図を書いたらスタジオの整理を進めたい。夜はすつかり涼しくなったが、昼間も少し日差しが和らいでくれたらと思う。石彫、果たして期明けられるかどうか。明日は午後から雨予報のため、午前中にタルにブルーシートをかける。
9月18日 ^木	8:20-20:20	午前中に野村さんを手伝っていただき、タルにブルーシートをかけた。いつも助けていただきありがとうございます。その後彫削して履食。そしてまたしても履のテントにやられてしまった。もうテント片付けようかな……。午後からは雨が降り出し、かなとの本影になった。雷もなっていたので夕方まで正面台の図を書いておいた。夕方以降は石彫を再開。穴が深くならないよ!よ!よ!よ!と打つことができない。もはや一打で石の粒一つずつ飛ばしている感じ。やってもやっても全然景色が変わらない。姿勢もアクロパティックな感じでエネルギー消費はどんどん増えていくのに、進むスピードはそれに反比例して遅くなっていく。夜はかなり涼しくなって嬉しい。いつものワノコの散歩のおじちゃんともご挨拶。明日も石彫を頑張る。
9月19日 ^金	8:20-20:10	朝から石彫。今日は深さを出すのではなく側面と上部を広げることにした。午後から野村さんとスタジオの模様替え。冷蔵庫のある側にひたすら物を押し込んで、301例は正面台などの制作した道具だけにする。テントも高張るのを仕舞った。さらば魔のテント。部屋の整理にそれなりに時間がかったので続きは明日。工具類片付けねば、夜には野村さんに道具のキャプションも作っていた。細やかにありがとうございます。ハンドアウトやスライドショーも内容を更新していただき有り難いです。文化村職員の西村さんも編集ありがとうございます!明日午後からまた雨になるらしく、できるだけ外に出ている物を部屋に移動させたり、乾かしていたブルーシートをしまったらした。タルを支える番木も調整した。今日はこれまでに以上に涼しい。毎日これくらいになって欲しい。トークイベントまで残り1日。明日は石彫もしたいが諸々準備作業で終わりそうな気がする。
9月20日 ^土	8:40-19:30	またしても起きたら奈良駅……。いつもより少し遅れて文化村着。午前中にタル台車の階段を簡単に制作。さすがに簡素すぎるか? 昼頃に大阪から親戚一家が見に来てくれたので案内。今日はスタジオ向かいの部屋でみまわりの家さんのワークショップが行われていて、とてもいい雰囲気。ダンボールや新聞紙で魅力溢れる作品がたくさん生まれていて、何よりみなさん楽しそう。いい刺激をいただきました。スタジオの片付けを大まかに終えた。あとは明日机の上の片付けと掃除をして図を窓に貼れば完了か。夕方は野村さんを手伝っていただいてタルにブルーシートを被せた。屋外作業場は明日テントを畳んで道具類や木材を片付ける。炭や木片も掃除しておかなくては。石をブローワーで吹いてできる限り粉を飛ばしておきたい。あとは台車で段差を越える用の板を用意する。やはり今日は石彫作業は殆どできず。帰って野村さんに撮影いただいた写真などからピックアップしてトーク用の写真を用意します。皆さま、明日はどうぞ宜しくお願い致します。
9月21日 ^日	8:10-18:30	トーク「グルングルングルングルンの報告会」。朝からスタジオと屋外作業場の整理。昼頃に正木さん、今回さん、石場さん、塩谷さん、斐生田さんがご到着。塩谷さんに久しぶりにお会いできて嬉しい。後半のパフォーマンスの実施場所についてNGが出たりと混乱するも、平山さんと野村さんに方々と調整していただき、何とか方向性が決まった。ありがとうございます。トークは早く藤元さんに渡さねばと、さらっと話してしまいましたが、少々早すぎたか。しかし藤元さんのお話はどれも興味深く、考古学の研究者ならではのマニアックな視点と藤元さんの語り口がとても魅力的。奈良にはとんでもない石造物がたくさんあることを改めて知ることができた。太古よりの諸先輩方の仕事を見て自分のやっている事のちっぽけさを味わうことができ(いい意味です)、まだまだもっとやれるんやなと思った。トークのあとはスタジオの中を見てもらい、補つくり本職からのコメントもいただき恐縮。きつと、もつとこうした方がいいとか、こんなやり方はあかんとか、プロなら色々と言っていたことが出てきそうなものだが、そんな事は一切か他人の(素人の)仕事を認めてくれる懐の深さを感じた。その後、スタジオを後にして屋外へ。以前の制作時にも来てくれた親子連れも来てくれた。子供たちから出て来てるやん!と言ってもらえてほっこり。みなさんに石やタルをそれぞれ体験してもらった後、台車でタル出発。自分も台車を押す気だったが、結局平地では上に乗って鳴らさせていただいた。叩いているタルの中からも場所によって響きが変わっていることが分かり、外で聞いていたらまた違って聞こえるのだろうかなどと想像する。斐生田さんには重い機材を持って下さり動いて様々な方向から撮影していただき、本当に有り難いです。たぶんこの日は斐生田さんが一番忙しかつたのでは……。撮影いただいたのを見せたいのがとても楽しみ。タルは国道手前まで行かせていただき、また作業場へと戻っていった。台車を押していただいた皆さま、本当にありがとうございます。終わってから記録撮影の打ち合わせなどして、自分はバスのため早めに退出。明日からはまた通常の作業に戻る。事故や怪我なくこの日を終えられたこと、皆さまに方々と助けていただいたからこそでした。ありがとうございます。

月日	黒川予定	主な内容(予定含む)
9月22日 ^日	10:00-20:10	月曜日はデマンドジャルがお休みなのを失念。バスが無いので歩いて文化村へ。良い運動になった。到着後はタル側板のユニット化作業。足場板をタルのカーブに合わせて削って骨組みを作ろうと考えているが、正直なところ板が薄くて力不足かという心配がある。とはいえやってみないと分からないので進めるしかない。あと数日で、実際に試すところまでいけるだろうか。夜に石を彫り始めたところ道駅に車を停めているトラックの運転手さんが見に来てくれた。仕事で日本全国行ったり来たりしているらしい。移動の間に神社参りをするのが趣味のようで、あちこちの神社の話を始められて止まらなくなり、知らない神様の名前をたぐさん聞かされても何が何だワケが分からない。ほとんど作業ができず帰りの時間になってしまった……。みなさん大体は夕方ごろの涼しく始めてからお越しになるのだが、そのタイミングはちらちちゴールデンタイム、とにかく少しでも涼しい時間帯に作業を進めたい。昼間の暑い時間帯に来てくれたらいいのになどと自分勝手なことを考えてしまう。いけないいけない。でも、明日はもっと作業したいなあ。
9月23日 ^火	8:40-20:00	ホームセンターへ寄ってから文化村へ。搬出のトラック(2tアルミバン)を予約。自分的にはまだ到着搬出を見据えられない状態にない。作業を少しでも進めねば。午前中からタル骨組み用の木材をスタジオに運んで削り作業。タルが真円になっていないため、どれくらいのカムにすべきの良いのか分からない。何度か調整しながら進めていたのもあって、丸一日この作業で終わってしまった。明日もまだ続そう。今日は休日だからかたぐさんの人がスタジオにいらしゃった。久しぶりにスタジオ作業だったから余計にそう感るのかも。
9月24日 ^水	8:40-19:30	屋外でタル骨組みの制作。タルの縦方向、横方向のカーブを見ながら板を削る。厚すぎに一旦削り終わったので、これで試しに取り付けてみようと思う。板を固定するのにための長ビスが必要で、先日ネットで注文したものがまだ届かないため、ひとまずタル作業に探しに行くこととした。タルの小さめの木材をダンボール箱に詰めたりして、石彫開始。今日は石のすぐ周りで草刈りが行われている謎な光景になっていると思う。夕方、成瀬さんがお越しになり、無事タルも見ていただくことができた。この厚みの板を曲げられることに驚かれた様子。川上村では吉野杉を使って桶太鼓を作って演奏する企画もあるらしい。もちろん、そのうち太鼓は真っ直ぐの円筒形のことだった。石彫は遅々として進まないが、ここに来て人間用じゃない鑿が活躍し始めた。扱いは少しづつ慣れてきた気がする。それにしても進まないなあ(楽しんでます)。帰る道、電車に乗って目が覚めたら十数駅でまた降り過ごしたと思っし吐息。下車し、かた急行に乗っていたはずなのに、なぜ各駅停車のみのか!?!と思っていたら、よく見ると電車を降りたホームは奈良方面行側。つまり一度京都駅まで行って戻って来ていたらしい。そのまゝ寝ていたらまた奈良まで行っていったらと思うと恐ろしい。すつかり帰りが遅くなりました。
9月25日 ^木	8:20-18:30	午前中はタル骨組み作業の続きと石彫。スタジオの撤収準備も少しだけ進めた。見目は変わらないけど……。午後に骨組み用のビスが到着して試しに使ってみたところ、胴の長くて細いビット(しかも#3のスクエア)がないという作業できないことが判明。ホームセンターに探しに行くこととしたところ兵庫県立美術館の中谷さん到着。色々説明している途中に京都市立芸術大学を今年退任された谷本先生と芸術資源研究センターのはがさんがお越しになったので中谷さんと一緒に色々お話しして作品も見ていただいた。谷本先生松長さんに教えていたことがあるらしく、松長さんに宜しくと言って帰らされた。いつもより早めに退出してホームセンターに行き、なんとかそれらしいビット&延長パーツを発見した。明日これで作業が進められそうです。
9月26日 ^金	10:00-19:00	朝、交通整理のおっちゃんの仕事前にお話を聞いてお越しになった。この暑い夏にさらに耐え抜いた大先輩に作品を見ていただく嬉しい。お土産までいただいてしまい、ありがとうございます。パラル台に不具合が出たら電話していただきお伝えしたら、既に電話帳に番号を登録してくれていた。タルの骨組みは少し対処しなければならぬ問題はありますが、何とかいけそうな気がしてきた。明日は作品撮影もあるので、実際に進めるのは10月以降にしようと思う。11時半からしばらく別件打ち合わせ。その作品の搬出は10月末まで待っていただけることになり、石の行き先なども考え始める。北村さんにご提案いただいた、山長さんのところに置かせるだけでなく案がもし可能なのであれば、かなり現実的かもしれない。あとは西成に持って行くのも(できるのであれば)良いかもかもしれないと思った。なんか早く行き先を確定しなくては、午後になりに眠くなってしまい、テーブルの下に足を敷いて少し仮眠。起きた時に丁度スタジオを覗いていた方が目が合ってた感じがしてしまったが、お話ししてみたらなんとこの文化村クリエイションの前担当の方のお母様だった。スタジオも屋外も一つひとつ丁寧に話を聞いていただきありがたい。夕方はスタジオの片付けを少し進めた。野村さんと少しゆっくりお話しして、こどもで野村さんと平山さんと一緒にタッグを組んでいたけれどからこの企画だったなと思い、改めて感謝の気持ちが入り込ませる。正木さんをはじめGallery PARCの方々、文化村の職員の方々、斐生田さん、塩谷さん、CRAFT-1のご主人、太平のおっちゃんたちや掃除のおばちゃんたち、素材を買っていただいた業者さん、リサーチでお伺いした場所の方々……。挙げ出したらきりがなく、本当に賢い環境で作業させていただきました。搬出も含めてあと数日、引き続きどうぞ宜しくお願い致します。それから、今回の企画について関係者の皆さまと一緒に振り返る時間を持ちたいです。良かったこと、改善すべき点など挙げてみて、自分にとっても文化村にとっても、今後にきちんと繋げられるように、それぞれの視点から見えたこと、感じたことを共有できたらと思います。きつと皆さまお忙しいとは思っていますが……もし可能であればお時間をいただけたら嬉しいです。
9月27日 ^土	10:00-19:00	公開最終日。午後から正木さんと斐生田さん来村予定。
9月28日 ^日	不在	京都芸術センターイベント登壇
9月29日 ^月		撤収作業。朝8時に京都でトラックを借りて行くので、11時前くらい着になるかもです。いったんスタジオの荷物を全て交流ラウンジに出して、先に積むことになりそうな重いもの、硬いもの(木材や道具ケースなど)からとどんど下に移動して、トラックに積んでいく。
9月30日 ^火		撤収作業完了。

そしてグルングルンはつづく タル イワ これから

黒川岳

2025年9月、なら歴史芸術文化村での約3ヶ月に及ぶレジデンスが終わりました。

あっという間の夏でした。

レジデンスが終わったら、タルもイワも文化村から搬出しなければなりません。

そして、今後はそれぞれ新たな場所で展示したり、

作品にもさらに手を加えていく予定です。

タルとイワの搬出

タルは組み上げた状態のままクレーンで吊り持って帰ってしまえば楽なのですが、次の行き先である名古屋のギャラリーの入り口の間口がタルの幅よりかなり狭いことが判明。タルをそのまま建物へ入れられないようなのです(さらに、展示場所の部屋幅はタルの幅と数センチしか差がない!)。そのため、狭い空間で再度組み上げられる分解方法を考えることとなりました。タルの内側のカーブに合わせて加工した木材を取り付けてバックアップとし、これまで箍(たが)代わりにしていたレバブロックを外してもバラバラにならないようにして、7つのユニットに分解しました。正木さんや文化村の皆さまに分解作業をお手伝いいただき、黒ひげ危機一髪のような状態になりながらもなんとか無事に分解することができました。



イワは次の行き先の準備が整うまでしばし待ってもらわねばなりません。



タルとイワの今後

タルもイワも今後は、いずれも展示するだけに留まらず、これから場所を移動したり、まだまだ手を加えたり……と様々なことが起こっていきそうです。

タルの今後は、今回のレジデンス中に成し得なかった「太鼓としての皮張り」に挑戦しようとしています。大阪の皮革産業の業者さんや太鼓製作の会社の方々に話を聞きながら、どうにかしてタルの両面に牛の皮を張ってみれないかと思案しているところです。タルの直径がかなり大きいので、なかなか大変なことになりそうですが、どうやら皮を伸ばして張る必要があるらしく、そのために大人数で皮の上に乗って、トランポリンのようにジャンプしたりすることになるかもしれない……!?他にも竹の籬(たが)作りの構想もあります。そうして、もし本当にタルが太鼓として完成したならば、酒樽があちこちに運ばれていくように、タル太鼓と共に色々な場所に移動して、ドーン ドーンと街じゅうに響く音に耳を澄ませてみたいものです。

イワは、せっかく少し大きな石にすることができたので、もう1つくらい穴を彫り足してみようと思っています。次の行き先は大阪・西成区。この辺りは川に流されてきた砂が堆積してできた土地で、地中を掘っても全然岩がありません。そんな場所にあのサイズのイワがやってくるのを想像すると、今から不思議な気持ちになっています。地中はイワとあまり縁の無さそうな西成ですが、地上には様々な「作業」に携わっている／携わってきた方々のいる魅力的な場所です。街には建物が所狭しとひしめき合っていて、ちょうどこの文章を書いている現在も、このイワをどうやって町の狭い道をくぐり抜け、どうやって作業場所に持って行けるか、現地の方々と作戦を立てているところです。たった一つの石を運ぶだけなのに、この道は10tダンプは規制されて通れないとか、この曲がり角がギリギリ狭くて危ないかもとか、地中に〇〇が埋まっているとか、普段ただ歩いているだけでは気づかなかったことが見えてきて、とても興味深いです。

長々と書いてしまいましたが、タルも、イワも、まだまだグルングルンし続けます。もちろん僕も。次は何にぶつかるだろう?どこまで転がって行けるのだろうか?どうせ止まることなんてできないのだから、できる限り楽しんで回っていききたいものです。最後に、この企画にあたって本当に多くの方々にお世話になりました。一緒にグルングルンしてくれた皆さまに、最大の感謝を敬意を込めて。ありがとうございました。そして、これからも宜しくお願いいたします!





なら歴史芸術文化村



ガレンガレン